

デジタル・スマートシティ浜松の取組 ～国土縮図型都市・浜松の挑戦～

2022年10月21日

Digital Smart City HAMAMATSU



デジタル・スマートシティ推進課長 瀧本 陽一



目 次

- 1 浜松市の紹介
- 2 デジタル・スマートシティ浜松の推進

<Appendix>

- (1) ウェルネス分野
- (2) モビリティ分野
- (3) エネルギー分野
- (4) デジタル・スマートシティの各種取組

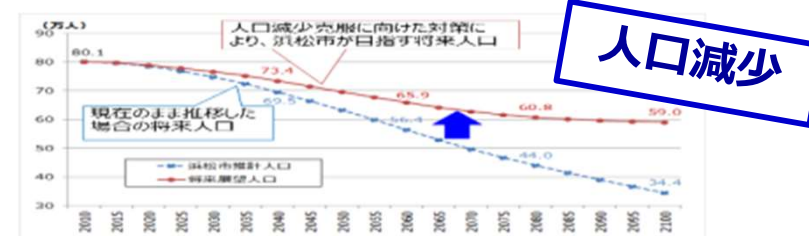
浜松市の紹介

国土縮図型の政令指定都市・浜松

全国の市町村が抱える課題を
凝縮した政令指定都市

- ① 広大な市域【全国第2位】
(市域の約67%は森林)
- ② 道路総延長【全国第1位】
- ③ 橋梁数【中部地整管内第1位】
- ④ 過疎地域を内包
(みなし過疎地域：市域面積の約50%)

<人口の将来展望：人口ビジョン>



浜松で持続可能な都市モデルを確立
できれば日本全体のモデルとなる



浜松市の紹介

- ① **健康寿命** 三期連続日本一
- ② **幸福度** ランキング 政令市第 1 位
- ③ **SDGs未来都市** (2018年度第1回認定)
- ④ **再生可能エネルギー導入容量** 全国第 1 位

※浜松市域“RE100”表明 (令和2年3月)

- ⑤ 日本有数の「**ものづくりのまち**」



- ⑥ **スタートアップ**・エコシステム
グローバル拠点都市

- ⑦ 世界に誇る「**音楽の都**」

- ⑧ **農業**産出額 全国第7位



デジタル・スマートシティ浜松の推進

デジタルファースト宣言

■ 宣言日 2019年10月31日

■ 目的

人口減少・少子高齢化をはじめとした社会課題が深刻化するなか、AI・ICT等先端技術やデータ活用などデジタルの力を最大限に活用し、持続可能な都市づくりを推進する。

■ 戦略分野

- (1) 「都市づくり」のデジタルファースト【都市の最適化】
- (2) 「市民サービス」のデジタルファースト【市民サービス向上】
- (3) 「自治体運営」のデジタルファースト【自治体の生産性向上】

■ 浜松市フェロー



陳内 裕樹 氏



東 博暢 氏



関 治之 氏



日下 光 氏



南雲 岳彦氏



白坂 成功氏



推進体制

【官民連携組織】

R2.4.1設立

浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム

代表：浜松市長、事務局：浜松市（デジタル・スマートシティ推進課）

 会員数:173
(R4.3.29現在)

 デジタル・ガバメント分野
浜松市所管部局

 防災・安全分野
浜松市所管部局

 教育・子育て分野
浜松市所管部局

 観光・商業分野
浜松・浜名湖
ツーリズムビューロー

 産業(ものづくり)分野
浜松市スタートアップ戦略
推進協議会

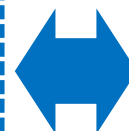
運営委員会

※必要に応じ部会や分科会を設置

 エネルギー分野
浜松市スマートシティ推進協議会

 モビリティ分野
浜松市モビリティサービス
推進コンソーシアム

 健康・医療・福祉分野
浜松ウエルネス推進協議会
浜松ウエルネス・ラボ

 農林業分野
【林業】静岡県農林技術研究所森林・
林業研究センター
【農業】浜松スマート農業推進協議会 準備会


連携

【庁内組織】

R2.4.1設置

デジタル・スマートシティ推進本部

 本部長：市長、副本部長：副市長
事務局：デジタル・スマートシティ推進課

 デジタル・
スマートシティ
推進WG

 デジタル・
ガバメント
推進PT

デジタル・スマートシティ推進課



＜デジタル・スマートシティ推進課の所管事業＞

- デジタル・スマートシティ推進
- 浜松版MaaSの推進
- デジタル・ガバメントの推進
- デジタル・マーケティングの推進

浜松市デジタル・スマートシティ構想

将来像

～デジタルで“繋がる未来”を共創～

人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し、「市民QoLの向上」と「都市の最適化」を目指し、デジタルで“繋がる未来”を官民で共創します。

目指す方向性（基本理念）

「市民QoLの向上」と「都市の最適化」

必要な視点1

オープンイノベーション

イノベーションの創出に向け、組織や分野等を越えた共創のまちづくりを推進します。



必要な視点2

市民起点/サービスデザイン思考

デジタルは、「市民QoL」「都市の最適化」のための手段と捉え、“市民起点”のまちづくりを推進します。



必要な視点3

アジャイル型まちづくり

スモールスタートでまずチャレンジし、トライ&エラーを繰り返し、変化に強いまちづくりを推進します。



5原則

※G20スマートシティ都市連合が策定した5原則に準拠

基本原則1

オープン/相互運用性

基本原則2

包摂性/多様性

基本原則3

透明性/プライバシー

基本原則4

持続可能性

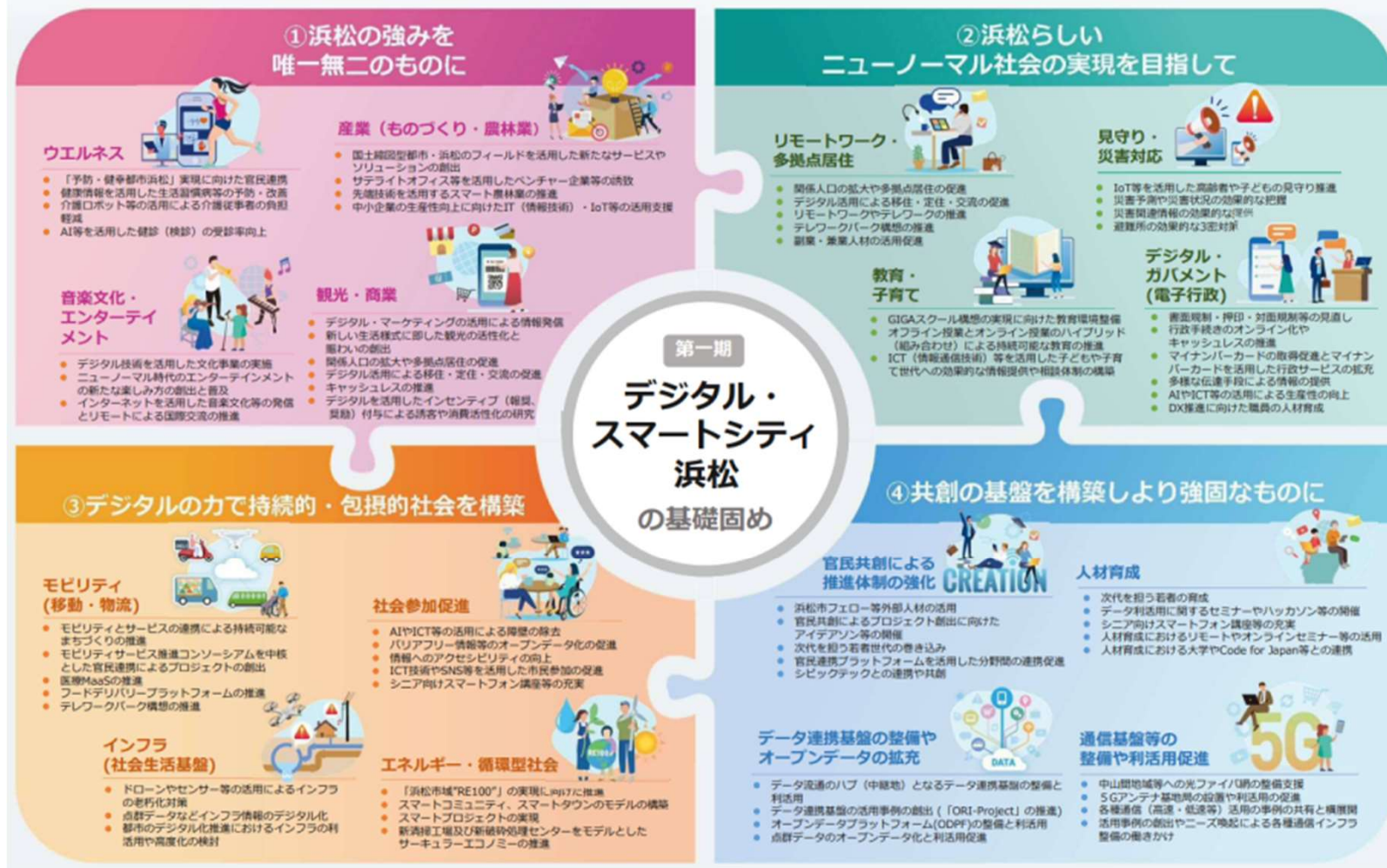
基本原則5

安全・安心/強靱性

浜松市デジタル・スマートシティ構想

第一期（2020年度～2024年度）における重点取組分野

2020年度から2024年度の5年間で第一期と位置づけ、①本市の強みを活かした取組、②ウィズコロナ、ポストコロナのニューノーマルや安全・安心への対応、③課題解決型アプローチによる持続可能で包摂的な社会の構築に向けた取組、④推進基盤の構築や強化に重点的に取り組みます。



「浜松市デジタルを活用したまちづくり推進条例」の制定

10

条例施行：2022年7月1日

制定 の 目的

- ① デジタル社会形成基本法の趣旨に基づき、デジタルを活用したまちづくりに関する本市施策の策定、実施について規定する。
- ② デジタルファースト宣言以降の本市取組の経緯を踏まえ、デジタルを活用したまちづくりに関する基本原則を改めて規定する。
- ③ 2020年12月総務省が策定した「自治体DX推進計画」を踏まえ、行政手続きのオンライン化、キャッシュレス決済等デジタル・ガバメントの推進計画の策定根拠を規定する。

主な 規定項目

- 目的
- 基本原則 - 構想 5つの基本原則を規定
(①オープン／相互運用性、②多様性／包摂性、
③透明性／プライバシー、④持続可能性、⑤安全・安心／強靱性)
- 市の責務 - 基本原則にのっとり、市民等と連携し、及び協力しながら、
施策を総合的に策定及び実施する
- 市民等の役割 - 市と連携し、及び協力するよう努める
- 基本指針等の策定等 - 基本指針及び推進計画の策定

「浜松市DX推進計画」 (策定中：2023年1月1日施行予定)

11

浜松市DX推進計画【本書】 (案)

Digital Smart City HAMAMATSU

■ はじめに

策定趣旨

- ・国の各種法律（官民データ活用推進基本法やデジタル社会形成基本法等）の制定や総務省「自治体DX推進計画」の策定、本市の「デジタルを活用したまちづくり推進条例」の制定等を踏まえ策定。
- ・デジタル・ガバメント（電子行政）や官民データの活用を本計画に基づき効果的に推進するとともに取組を加速する。

背景

<社会情勢>

- ・人口減少、少子高齢化
- ・成熟社会、価値の多様化
- ・With/Afterコロナのニューノーマル時代
- ・国民生活におけるデジタル化の進展

<国の動向>

- ・2016年12月 官民データ活用推進基本法の施行
- ・2019年12月 デジタル手続法の施行
- ・2020年12月 総務省「自治体DX推進計画」策定
- ・2021年9月 デジタル社会形成基本法の施行及びデジタル庁の設立

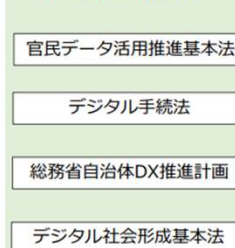
<本市の取組>

- ・2019年10月 デジタルファースト宣言
- ・2020年4月 体制整備（庁内・庁外）
- ・2021年3月 デジタル・スマートシティ構想の策定
- ・2022年7月 デジタルを活用したまちづくり推進条例の施行

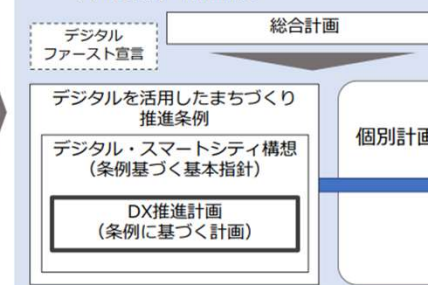
位置付け

浜松市デジタルを活用したまちづくり推進条例第6条第2項に基づく計画及び官民データ活用推進基本法第9条第3項に規定する市町村官民データ活用推進計画として位置付けます。また、浜松市情報化基本方針は、本計画に統合します。

<国の法律・計画等>



<市の条例・計画等>



計画期間

2023年1月～2025年3月

※計画期間内において、情報通信技術（ICT）や政策の進展により適宜計画内容を見直します。

■ 推進体制等

推進体制

<庁内体制>

デジタル・スマートシティ推進本部

（本部長：市長、事務局：デジタル・スマートシティ推進課）

<外部人材の活用>

効果的にDXを推進するため、浜松市フェローなど積極的に外部人材を活用します。

人材育成

DX人材に求められる知識、スキル、意識等を身につけるため、体系的に人材育成を行います。

データを活用した政策立案や評価の推進

行政の効率化、高度化を図るため、客観的証拠となる統計等のデータを整備し、証拠に基づく政策立案（EBPM）や評価へのデータ活用を進めます。

DXと業務改革を一体的に推進

単にデジタルツールを活用するのではなく、市民目線で行政サービスを設計するとともに、業務プロセスの見直しをはじめ業務改革とDXを一体的に推進します。



情報セキュリティの確保等

<情報セキュリティの確保>

「浜松市情報セキュリティポリシー」に基づき情報セキュリティの維持・向上に努めます。

<ICTガバナンス（管理）の確立>

「情報システムの企画・調達・運用に関する適正化ガイドライン」（2022年4月策定）に沿って情報システム等を調達し、システムの品質向上や調達プロセスの標準化・透明性の確保、情報化に要する経費の抑制を図ります。

「浜松市DX推進計画」 (策定中：2023年1月1日施行予定)

12

浜松市DX推進計画【本書】 (案)

Digital Smart City HAMAMATSU

■ 目指す方向性と基本的考え方

社会情勢 「人口減少・少子高齢化」「変化のスピードが速い」「成熟社会・価値の多様化」「デジタル化の急速な進展」

目指す方向性

人に寄り添ったデジタル活用
～安全・安心、便利で快適な市民サービスの実現～

デジタル活用による
市民サービスの向上

自治体の生産性向上

人に寄り添ったデジタル活用のイメージ

行かない、待たない、
書かない

デジタル
機器に不慣
れでもきめ細
かなサポート

必要な
情報を必要
な時に取得

いつでも、どこでも
相談可能

基本的考え方

- ① 人が中心、デジタルは手段
- ② 個人情報の保護とプライバシーへの配慮
- ③ 変化を先取りし、新たな価値を創出する（組織・制度・職員意識の変革）
- ④ 小さく始めて、改善を繰り返す
- ⑤ システム所有からサービス利用へ

■ 取組事項の体系

【デジタル活用による市民サービスの向上】

- ① 行政手続きのオンライン化の推進
- ② 書かないワンストップ窓口の推進
- ③ キャッシュレス決済の推進
- ④ 電子契約・電子請求の推進
- ⑤ 情報発信や相談等のスマート化
- ⑥ デジタルを活用したコミュニケーションのUD化
- ⑦ デジタル活用のサポート
- ⑧ オープンデータ化の推進
- ⑨ マイナンバーカードの普及及び利活用
- ⑩ セキュリティ及び個人情報の適切な取扱いの確保

【自治体の生産性向上】

- ① LGX推進に向けた組織・職員意識の変革
- ② LGX推進に向けたインフラ環境の整備
- ③ テレワーク等柔軟な執務環境の整備
- ④ ペーパーレス化の推進
- ⑤ 情報システムの標準化・共通化
- ⑥ デジタル活用による業務改革の推進

「浜松市DX推進計画」 (策定中：2023年1月1日施行予定)

13

5-(1) デジタル活用による市民サービス向上の取組

8

1

行政手続きのオンライン化の推進

<概要>

市役所に来庁しなくても手続きが完了するなど、市民の利便性向上並びに行政運営の効率化を図るため、行政手続き等のオンライン化を推進する。

<取組内容>

- ① 2022年度末までを強化期間に設定し、集中的にオンライン化を推進
 - ・汎用電子申請システム※10の導入
 - ・申請フォーム作成に関する研修等の実施
- ② 市民の利便性を一層高め、オンライン手続きの利用率を向上
 - ・本人確認や添付書類提出の必要性等、手続きの見直し
 - ・開始したオンライン手続きの効果的な周知
 - ・利用率向上のため、申請フォームの継続的な改善

<KPI、ロードマップ>

KPI

年間の申請件数を基にしたオンライン化率（件数ベース）・オンライン利用率
 2022年度：【オンライン化率】約70%（件数ベース）
 【オンライン利用率】強化期間におけるオンライン化後にKPIを設定
 2024年度：【オンライン化率】約73%（件数ベース）
 【オンライン利用率】強化期間におけるオンライン化後にKPIを設定

取組
番号

2022年度

2023年度

2024年度

①

手続き
現状調査

汎用電子申請システムを導入・運用

操作研修

利用率等計測・分析・評価

②

手続きの見直し

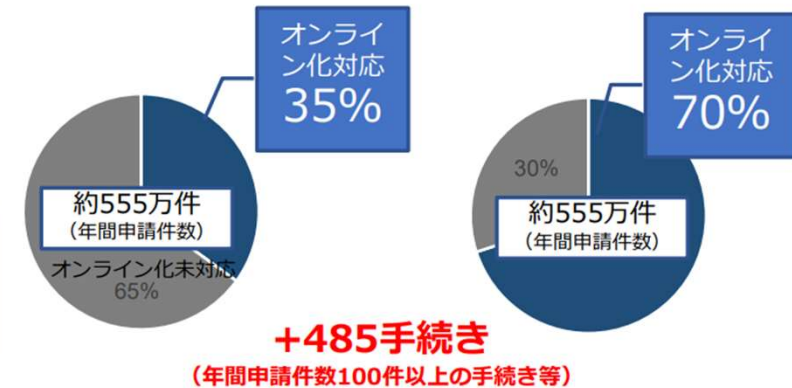
申請フォームの継続的な改善

オンライン化手続きの効果的な周知

<取組イメージ>

所管：デジタル・スマートシティ推進課

申請件数に対するオンライン化対応の割合



2021年度

2022年度

浜松市LGX行動規範、LGXコミュニケーションポリシー (2023年10月1日制定)

14

Digital Smart City
HAMAMATSU

浜松市 LGX 行動規範

私たち職員は、市民の Well-being（幸福感）が溢れ、持続可能なまちづくりを推進するため、本規範に基づき、LGX、自治体変革にチャレンジしていきます。

- 1 市民がデジタルの恩恵を享受するため、使いやすく人に寄り添ったデジタルの活用に取り組みます。
- 2 複雑化する課題への対応や新しい価値を創出するため、組織や分野を越えて積極的に交流・連携を進めます。
- 3 職員が生き生きと働く生産性の高い自治体運営を達成するため、業務や働き方、意識の変革に継続的に取り組みます。
- 4 時代の変化に迅速かつ柔軟に対応するため、小さく始め、大きな成果となるよう、改善し続けます。
- 5 安全・安心なデジタル活用のため、個人情報保護やセキュリティ対策を徹底します。

2022 年 10 月 1 日

浜松市長 鈴木 康友



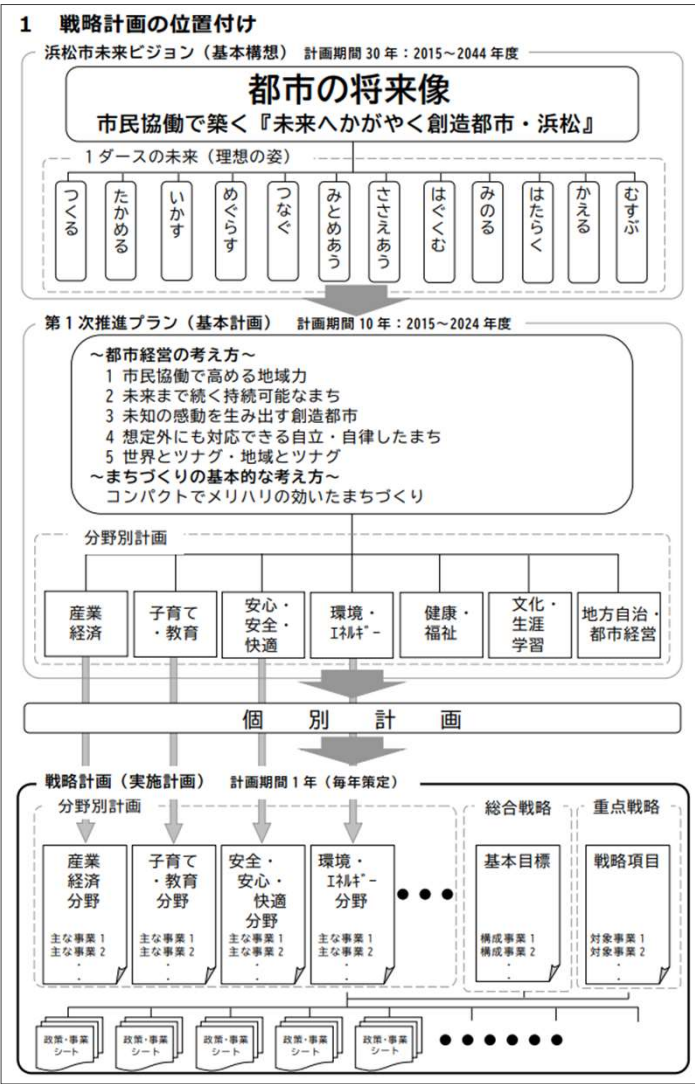
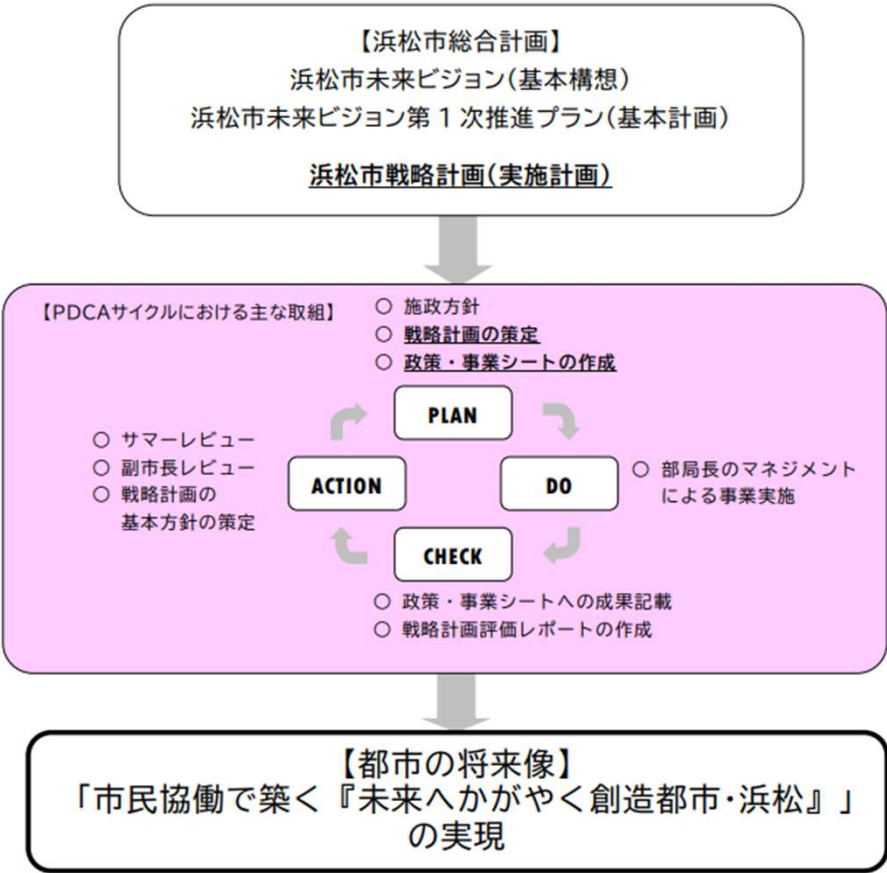
浜松市LGXコミュニケーションポリシー

2022年10月1日

Digital Smart City HAMAMATSU



戦略計画を核とした経営の仕組み



2022年度	分野 07	基本政策 05	政策 01	予算科目 01	所属コード 000471000	(担当課) 沼本 陽一	(責任者)	(基準日) 2022.7.1
政策シート 政策名 01 -								
予算費目名 01 デジタル・スマートシティ推進費								
1 基本情報								
(1) 総合計画体系								
分野		07 地方自治・都市経営						
理道の姿 (30年後)		◆協働による持続可能な都市経営を推進し、全国をリードする自立した基礎自治体になっている。						
政策の柱 (10年後)		◆協働に関わる多様な主体が連携し、協働による質の高い市民サービスが提供されている。 ◆公共インフラの整備・維持・管理に民間活力の導入が進んでいる。						
基本政策		05 -						
(2) 政策の概要(当年度(2022年度)実施内容)								
2020年度に策定した「浜松市デジタル・スマートシティ構想」「浜松版MaaS構想」「浜松市デジタル・マーケティング戦略」に基づき、ICT(情報通信技術)等の先端技術やデータを最大限に活用し、地域課題の解決や新たなビジネスの創出など、「市民QoL(生活の質)の向上」と「都市の最適化」を図るデジタル・スマートシティ政策を推進し、持続可能な都市づくりを進める。								
(3) 関連するSDGsのゴール								
③イノベーション ①都市 ⑦実施手段								
2 政策コストの状況(千円)								
	2019	2020	2021	2022	2023	2024		
予算	78,186		54,507	352,861				
決算	65,589		42,064					
人件費(報酬等)(A)								
人件費(人工分)(B)	53,200		72,800	127,400				
年間経費(予算又は決算+A+B)	118,789		114,864	480,261				
3 政策指標の状況								
政策指標	単位	年度	2019	2020	2021	2022	2023	2024
地域課題解決に向けた実証実験及び実装件数	件	目標実績		7	37	75	95	115
		実績		27	55			
AI等先進技術の業務への導入数(累計)	件	目標		29	39	60	70	80
		実績		37	54			
行政手続きのオンライン化進捗状況(累計)	件	目標実績		設定	483	1253	2760	-
		実績		設定	513			
4 前年度(2021年度)政策評価								
(1) 前年度(2021年度)実施内容								
「デジタル・スマートシティ構想」「浜松版MaaS構想」「デジタル・マーケティング戦略」の2構想1戦略に基づきデジタル・スマートシティ政策を推進。								
・データ連携基盤を活用した実証実験「Hamamatsu ORI-Project」に全国から13件の応募があり7件を採択。								
・庁内プロジェクトチーム及び覚書締結の博覧会と連携し、春野地区及びび内地区をモデルに共助型地域交通等推進モデル事業を実施。								
・市内4か所の協働センター等市民に身近な施設の会議室(各1部屋)にWi-Fiルーターを設置。								
(2) 政策評価(政策の進捗及び課題)								
<進捗> 計画通り								
・「Hamamatsu ORI-Project」により、データ連携基盤を活用したユースケース創出を目的とし、7件の実証実験を実施。								
・秋開催地域交通の推進については、アンケート調査を実施し、必要性を確認するとともに、春野地区で18回、庄内地区で22回の会議や意見交換等を行い、運営主体について協議するなど、持続可能な地域交通の確立に向け協議を進めている。								
・新たにデジタル・ガバナンスにおける人材育成に関する研修を実施するとともに、人事課とのWGIIにおいて、スキルマップの作成をはじめ、DX人材に必要なスキルや意識等の整理を進めた。								

2022年度

分野

07

基本政策

05

政策

01

予算費目

01

所属コード

000471000

(管理番号)

(担当課)

デジタル・スマートシティ推進課

(責任者)

滋本 陽一

(基準日)

2022.7.1

◇政策実現のために実施する事業一覧

	事業名	財政年度 科目番号	事業年度 科目番号	費目 番号	コスト (千円)	事業費 (千円)	人工			報酬 (千円)
							正規	再任用 (31h)	再任用 (26h)	
1	デジタル・スマートシティ推進事業	〇	一	〇	122,359	78,259	6.3			
2	浜松版MaaS推進事業	—	—	〇	31,974	14,474	2.5			
3	デジタル・ガバメント推進事業	一	〇	〇	306,744	252,144	7.8			
4	デジタル・マーケティング推進事業	—	—	〇	13,969	5,569	1.2			
5	デジタル・スマートシティ推進 デジタル運営経費	—	—	—	2,387	987	0.2			
6	デジタル・スマートシティ推進 運営経費	—	—	—	2,828	1,428	0.2			
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
16										
17										
18										
19										
20										
21										
22										
23										
24										
25										
計					480,261	352,861	18.2			

※(1)工事費(千円) 工事7,000 車任用(5,313,600) 車任用(5,262,600) 合計年度任用職員(人事課等)12,800

※人工単価(千円)正規7,000 再任用(h31)3,600 再任用(h26)2,600 会計年度任用職員(人事課予算)2,800

戦略計画を核とした経営の仕組み

(管理番号)							
2022年度	分野	基本政策	政策	予算費目	所属コード	事業	(担当者) (責任者) (基準日)
	07	05	01	01	000471000	01	デジタル・スマートシティ推進事業 瀬本 陽一 2022.7.1

事業シート (事業名) 01 デジタル・スマートシティ推進事業

1 基本情報

(1) 事業目的・事業対象

2020年度に策定の「浜松市デジタル・スマートシティ構想」に基づき、人口減少・少子高齢化やインフラ老朽化、コロナ禍の状況においてデジタルの力を最大限に活用し、「市民QoL(生活の質)の向上」と「都市の最適化」を目指し、デジタルで「繋がる未来」を官民で共創する。

(2) 事業の性質

開始年度	終了予定	会計区分	事務区分	根拠法令等
2020	2024	一般会計	自治事務(その他)	

(3) 事業の位置付け

主要事業	☐	※「総合戦略」「重点戦略」該当事業及び政策実現のため特に重要な事業を主要事業とする。
総合戦略	☐	(施策) III-5(2)イ
重点戦略	☐	(戦略項目)

(4) 関連するSDGsのゴール

⑤イノベーション	⑦都市	⑦実施手段
----------	-----	-------

事業とゴールの関連性

データやICT(情報通信技術)等の先端技術を活用し、イノベーションの創出による産業の活性化や都市機能の高度化を目指すデジタル・スマートシティ政策を官民が連携して推進することにより、都市の最適化を図る。

2 事業コストの状況(千円)

		2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
事業費(千円)	予算		75,521	16,026	78,259		
	決算		64,494	14,333			
	国・県支出		22,091	7,137	44,750		
	市債						
	その他		22,110				
一般会計繰入金	人件費(報酬等)(A)						
	人件費(人工分)(B)		51,800	32,900	44,100		
	正規		7.4	4.7	6.3		
	再任用(31h)						
	再任用(26h)						
会計年度任用職員(人事課予算)							
年間経費(予算又は決算A+B)		116,294	47,233	122,359			

3 事業の指標の状況(2022:重点戦略最終年度、2024:総合戦略・基本計画最終年度)

指標名称	総合戦略 施策体系	重点戦略 戦略項目	年度	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)
地域課題解決に向けた実証実験及び実装件数(累計)(件)	III-5(2) イ		目標			7	37	75	95
			実績			27	55		
			目標						
			実績						
			目標						
			実績						
			目標						
			実績						

(管理番号)							
2022年度	分野	基本政策	政策	予算費目	所属コード	事業	(担当者) (責任者) (基準日)
	07	05	01	01	000471000	01	デジタル・スマートシティ推進事業 瀬本 陽一 2022.7.1

4 前年度(2021年度)事業実施内容 (Do)

【官民連携プラットフォーム運営】

・官民連携でデジタル・スマートシティ浜松に取組む機運を醸成するとともに、市民の周知・啓発を目的とした「スマートシティマンス」を10月に展開し、冠事業の募集・実施、オンラインフォーラム等を実施。

・官民連携プラットフォーム(2020年4月1日設立)に173団体(2021年度末)が参加。会員間や分野間の連携を促進し、会員による新たなプロジェクトの創出を目的に運営委員会を5回開催。

・分野間連携を促進するため、各分野の取り組みを紹介する「ウェビナー」を9回開催。(2021年度新規)

・地域課題の解決に向け、会員同士が「持つソリューション」の情報共有や会員間の交流の機会とする「ソリューションピッチ」を2回開催。(2021年度新規)

【その他事業】

・データ連携基盤を活用した実証実験「Hamamatsu ORI-Project」に全国から13件の応募があり、うち7件を採択。

5 前年度(2021年度)事業評価 (Check)

(1) 事業の成果と課題

指標の達成度 進んでいる

・「Hamamatsu ORI-Project」において7件の実証実験を実施し、すべての実証実験でデータ連携基盤を利用した。

・官民連携プラットフォームの会員数は、発足時(初回運営委員会)52団体→2020年度末122団体→2021年度末173団体と着実に増加する等、官民共創に必要な下地や基礎固めが進んでいる。

・2021年度に9回実施した「ウェビナー」においては、計742人が視聴申込(うち市外62%、PF会員以外83%)、分野間での連携を促進するため、各分野の課題共有や最新の取組を発信した。

(2) 考慮すべき社会経済状況の変化(新たな社会課題や機会、法制度の改正、他団体の動向など)

・国・地方のDX推進を目的としたデジタル庁が2021年9月1日に発足。

・岸田内閣は「デジタル田園都市国家構想」を掲げ、デジタル化を一気呵成に進める想定。

・上記構想に基づき、「デジタル田園都市国家構想推進交付金」制度が創設されるなど、デジタル化やデータ連携基盤の整備・運用に向けた財源も確保された。

6 事業の見直し (Action)

(1) 前年度(2021年度)見直し内容(実施結果の振り返り)

大項目 改善 小項目 国・県補助金 / 情報発信 事業費 拡大 人 工 拡大

・2020年度に策定した「デジタル・スマートシティ構想」に基づき各種事業を推進した。

・会員間の連携促進、情報共有や本市取組の情報発信等を目的とした新規事業として「ウェビナー」を9回開催した。

・本市の取組や事業が報道機関や各種Web媒体等に取り上げられるなど、効果的な情報発信ができた。

(2) 当年度(2022年度)以降見直し内容(今後の方向性)

大項目 改善 小項目 ICT化 / 情報発信 事業費 拡大 人 工 拡大

・データの流通や利活用を促し、新たな価値創出によるイノベーションを創発するため、データ連携基盤を整備する。

・モデル地区でデジタル技術の相談人材を育成する等、共助型のデジタル技術活用の相談体制の構築を図る。

・官民連携PFの会員企業の派遣制度を創設し、小中学校等へ派遣することで人材育成につなげる。

・SNS等を活用し、本市及び官民連携PFの取組を市民や会員企業への情報発信を強化する。

7 当年度(2022年度)事業実施内容(Plan)

■「デジタル・スマートシティ構想」に基づき、デジタルの力を最大限に活用し、「市民QoLの向上」と「都市の最適化」の達成に向けた取組を推進する。

○官民連携プラットフォーム運営

・運営委員会やソリューションピッチの実施等、分野間の連携や会員間の情報共有・連携を促進することで、地域課題の解決や新たなビジネス創出を図る。

【主な実施内容】

・会員によるソリューションピッチの開催(年2回程度)、ウェビナーによる各分野の取組紹介(年4回程度)

・浜松デジタル・スマートシティMONTHの実施

・【新規】デジタル・スマートシティ浜松や官民連携PFの情報発信(SNSの活用等)

・【新規】会員企業の派遣制度の創設

○データ連携基盤整備・運用事業

○データ連携基盤活用モデル事例創出事業

・データの流通や利活用を促し、地域課題の解決や新たなビジネスの創出を図る。

・継続的に「ORI-Project」を実施することでデータ連携基盤を活用したユースケースを生み出し、地域課題の解決や新たなビジネスの創出に繋げる。

○【新規】デジタル技術活用支援事業

・モデル地区でデジタル技術の相談人材を育成する等、共助型のデジタル技術活用の相談体制を構築する。

PF会員によるソリューションピッチ（令和4年度）

- 今年度第1回のソリューションピッチは、デジタル・スマートシティ構想第一期重点分野の中から、「観光・商業」「ウェルネス」「防災」などのテーマを設定し、開催。

令和4年8月5日(金) 13:30-16:00

登壇団体：PF会員（8団体）

視聴参加者：PF会員及び浜松市各課

開会挨拶

浜松市デジタル・スマートシティ
推進部 部長 内藤 伸二郎

インプット

浜松市フェロー
東 博暢 氏

ピッチ

ピッチ(6分)・質疑応答(3分)
× 8 団体

講評

浜松市フェロー
東 博暢 氏

閉会挨拶

浜松市デジタル・スマートシティ
推進課 課長 瀧本 陽一

交流会

登壇団体および視聴者による
交流会

登壇団体（登壇順）	テーマ
ソフトバンク株式会社	産業（農林業）
株式会社フィーリンク	観光・商業
浜松ケーブルテレビ株式会社	インフラ
株式会社ドコモビジネスソリューションズ	観光・商業、エネルギー
中部電力株式会社	ウェルネス、社会参加促進
西日本電信電話株式会社	その他（スポーツ）
東京海上日動火災保険株式会社	モビリティ、観光・商業
株式会社TTES	インフラ



実証実験サポート事業（所管：スタートアップ推進課）

19

Digital Smart City
HAMAMATSU

応募テーマ一覧

ライフスタイル ① 無人図書館貸出サービスの実現 ② 生理用品への柔軟なアクセスの実現 ③ 浜松市で保有するオープンデータの利活用 ④ 自動運転技術等を活用した公共交通の維持	ウェルネス ⑤ テクノロジーを活用した介護職員不足の解消 ⑥ 介護サービス事業所検索の利便性向上 ⑦ 要介護者に適した住宅改修の実現 ⑧ 中心市街地における分煙化	DX ⑨ ICTを活用した観光施設案内と来場者データ分析システムの構築 ⑩ デジタルモノづくりのための製造現場のDX ⑪ コロナ禍対応としての製造現場のリモート化
環境・エネルギー ⑫ ごみの減量・資源化を通じたごみ処理経費の削減 ⑬ 地域資源を活用した効率的なエネルギー転換システム ⑭ 水素貯蔵技術等を活用した小型の創エネ畜システムの開発 ⑮ 製材所で廃棄されている木の皮（パーク）の有効利用 ⑯ カーボンニュートラル対応のための脱炭素ものづくり	インフラ ⑰ 土地建物の利用状況調査の効率化 ⑱ トローン等による中山間地域の水質検査の円滑化 ⑲ 3Dデジタル技術による施工計画の効率化（BIM/CIM活用） ⑳ 道路上の下水道施設異常等に関する市民参加型情報提供の仕組みづくり ㉑ 下水道施設の貯留槽等における硫化水素等発生抑制 ㉒ 下水処理場の処理池・貯留槽等の劣化診断 ㉓ 振動などの測定による水中機器の劣化診断	安全・安心 ㉔ 活動中の各消防隊員の状況（バイタル、位置情報）把握 ㉕ 消防活動に関わる知識・技術の効果的な伝承 ㉖ 浜松地域の社会課題解決に資するSDGsに関連した事業提案（フリー提案） ※各応募テーマの詳細な情報は、テーマNo.の個票に掲載しています。

募集期間

令和4年8月1日から令和4年9月下旬まで

実証実験期間

令和4年10月～令和5年9月

（実証実験プロジェクトの採択から1年間）

サポート内容

- ・ 最大200万円の経費支援（補助率2分の1以内）
- ・ 市内公共施設、協力企業が有する施設などの実証実験フィールドの斡旋
- ・ 実証実験モニター募集支援、実証実験に係る各種調整等
- ・ 法制度に関するアドバイス
- ・ 実証事業のPR支援
- ・ その他浜松市が必要と判断する支援

サステナブルな地域社会の構築

背景：全国共通の課題

社会の激変

- ・人口減少
- ・急激な高齢化



地域コミュニティが

崩壊

サステナブルな地域社会の構築が必要

デジタルを活用し**共助型社会**を実現

産業の活性化により**活力ある地域**を創造

デジタル田園都市国家構想基本方針の全体像

【基本的な考え方～「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指して～】

デジタルは地方の社会課題を解決するための鍵であり、新しい価値を生み出す源泉。今こそデジタル田園都市国家構想の旗を掲げ、デジタルインフラを急速に整備し、官民双方で地方におけるデジタルトランスフォーメーション（DX）を積極的に推進。

- デジタル田園都市国家構想は「新しい資本主義」の重要な柱の一つ。地方の社会課題を成長のエンジンへと転換し、持続可能な経済社会の実現や新たな成長を目指す。
- 構想の実現により、地方における仕事や暮らしの向上に資する新たなサービスの創出、持続可能性の向上、Well-beingの実現等を通じて、**デジタル化の恩恵を国民や事業者が享受できる社会**、いわば「全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会」を目指す。これにより、東京圏への一極集中の是正を図り、**地方から全国へとボトムアップの成長**を推進する。
- 国は、基本方針を通じて、**構想が目指すべき中長期的な方向性を提示し、地方の取組を支援**。特に、データ連携基盤の構築など国が主導して進める環境整備に積極的に取り組む。地方は、**自らが目指す社会の姿を描き、自主的・主体的に構想の実現に向けた取組を推進**。

【取組方針】

★解決すべき地方の社会課題

- ・人口減少・少子高齢化
※出生率 1.45(2015年)→1.33(2020年)
※生産年齢人口 7,667万人(2016年)
→7,450万人(2021年)
- ・過疎化・東京圏への一極集中
※東京圏転入超過数 80,441人(2021年)
- ・地域産業の空洞化
※都道府県別労働生産性格差
最大1.5倍(2018年)

デジタル実装を通じて、**地域の社会課題解決・魅力向上の取組を、より高度・効率的に推進**

等

➢ デジタルの力を活用した地方の社会課題解決

(2024年度末までにデジタル実装に取り組む地方公共団体1000団体達成)

- ①地方に仕事をつくる
スタートアップ・エコシステムの確立、中小・中堅企業DX（キャッシュレス決済、シェアリングエコノミー等）、スマート農林水産業、観光DX、地方大学を核としたイノベーション創出等
- ②人の流れをつくる
「転職なき移住」の推進（2024年度末までにサテライトオフィス等を地方公共団体1000団体に設置）、オンライン関係人口の創出・拡大、二地域居住等の推進、サテライトキャンパス等
- ③結婚・出産・子育ての希望をかなえる
母子オンライン相談、母子健康手帳アプリ、子どもの見守り支援等
- ④魅力的な地域をつくる
GIGAスクール・遠隔教育（教育DX）、遠隔医療、ドローン物流、自動運転、MaaS、インフラ分野のDX、3D都市モデル整備・活用、文化芸術DX、防災DX等
- ⑤地域の特色を活かした分野横断的な支援
デジタル田園都市国家構想交付金による支援、スマートシティ関連施策の支援（地域づくり・まちづくりを推進するハブとなる経営人材を国内100地域に展開）等

➢ デジタル田園都市国家構想を支えるハード・ソフトのデジタル基盤整備

2030年度末までの5Gの人口カバー率99%達成、全国各地で十数か所の地方データセンター拠点を5年程度で整備、2027年度末までに光ファイバの世帯カバー率99.9%達成、日本周回の海底ケーブル(デジタル田園都市スーパーハイウェイ)を2025年度末までに完成など、「デジタル田園都市国家インフラ整備計画」の実行等を通じてデジタル基盤整備を推進。

- ①デジタルインフラの整備
- ②マイナンバーカードの普及促進・利活用拡大
- ③データ連携基盤の構築
- ④ICTの活用による持続可能性と利便性の高い公共交通ネットワークの整備
- ⑤エネルギーインフラのデジタル化

➢ デジタル人材の育成・確保

デジタル推進人材について、2026年度末までに230万人育成。「デジタル人材地域還流戦略パッケージ」に基づき、人材の地域への還流を促進。

「女性デジタル人材育成プラン」に基づく取組を推進。

- ①デジタル人材育成プラットフォームの構築
- ②職業訓練のデジタル分野の重点化
- ③高等教育機関等におけるデジタル人材の育成
- ④デジタル人材の地域への還流促進

➢ 誰一人取り残されないための取組

2022年度に2万人以上で「デジタル推進委員」の取組をスタートし、今後更なる拡大を図るなど、誰もがデジタルの恩恵を享受できる「取り残されない」デジタル社会を実現。

- ①デジタル推進委員の展開
- ②デジタル共生社会の実現
- ③経済的格差等に基づくデジタルデバイドの是正
- ④利用者視点でのサービスデザイン体制の確立
- ⑤「誰一人取り残されない」社会の実現に資する活動の周知・機展開

（構想の実現に向けた地域ビジョンの提示） 地方の取組を促すため、構想を通じて実現する地域ビジョンを提示。



スマートシティ・スーパーシティ



「デジ活」中山間地域



産官協創都市



SDGs未来都市



脱炭素先行地域



MaaS実装地域

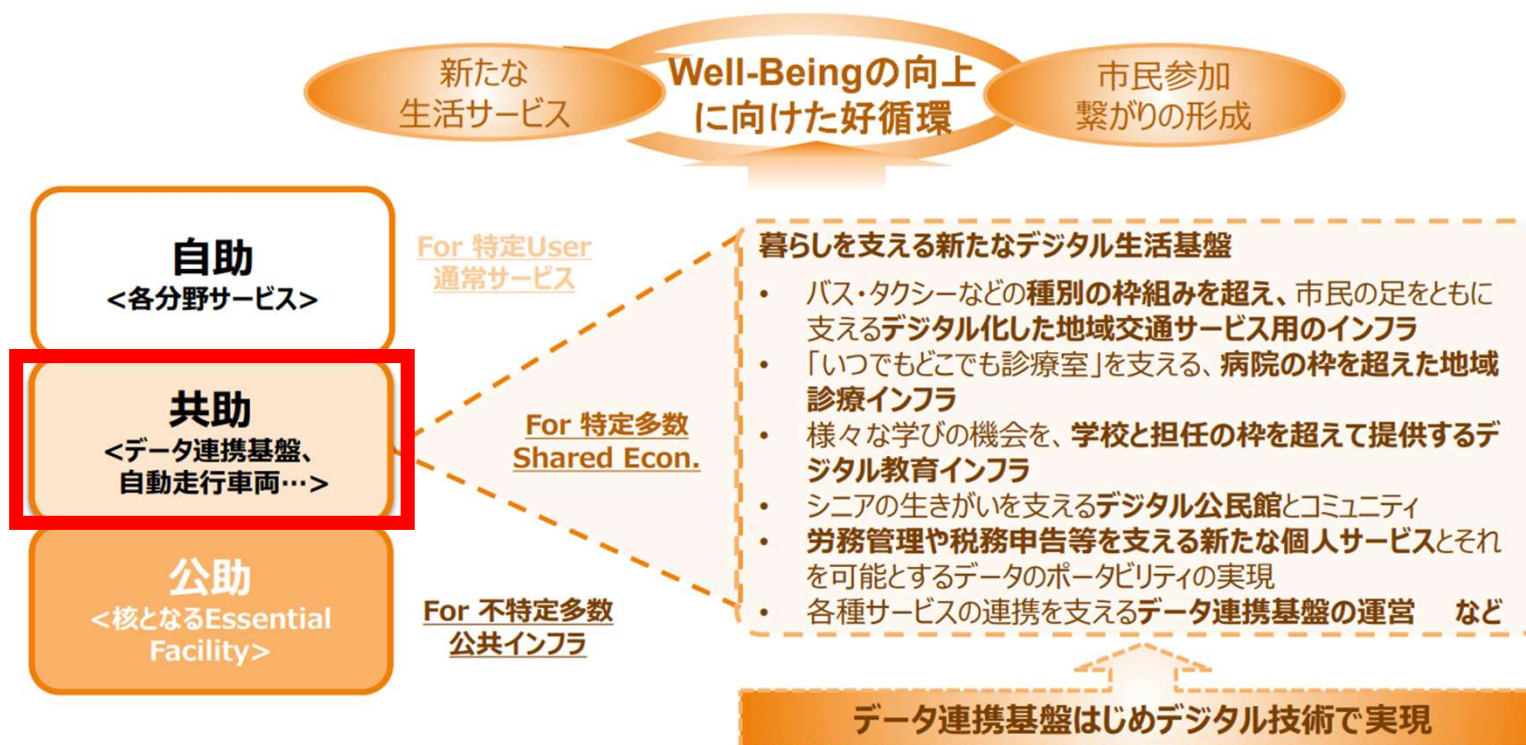
【今後の進め方】

○デジタル田園都市国家構想総合戦略（仮称）の策定（まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂）

・国は、2024年度までの地方創生の基本的方向を定めたまち・ひと・しごと創生総合戦略を抜本的に改訂し、構想の中長期的な基本的方向を提示するデジタル田園都市国家構想総合戦略（仮称）を策定。
・地方公共団体は、新たな状況下で目指すべき地域像を再構築し、地方版総合戦略を改訂し、具体的な取組を推進。国は、様々な施策を活用して地方の取組を支援。

共助が支える新たなデジタル生活基盤とまちづくり

- 多様な生活ニーズや価値観に寄り添うサービスを、デジタル技術によって磨いていくには、複数のサービスが積極的に協力し支え合う、共助のビジネスモデルを土台とした、デジタル生活基盤の再構築が必要。
- 共助のデジタル生活基盤を構築した上で、それを土台とした新たな生活サービスの創出と、積極的な市民参画による街の中での繋がりの強化による、Well-Beingの向上に向けたまちづくりの好循環を生み出すことが必要。

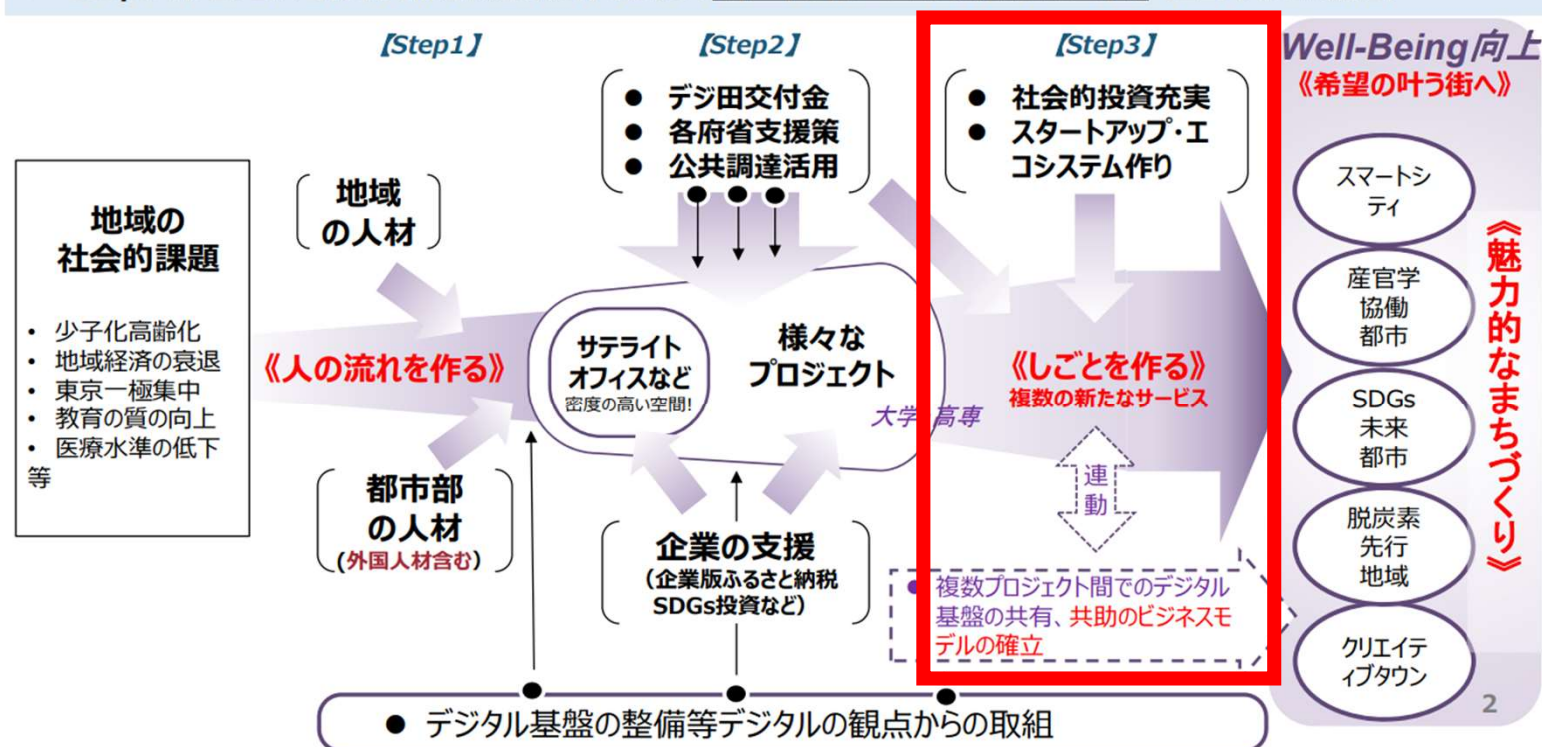


新産業創出への見取り図

「産業からの変革の全体像」を新産業創出という視点で
(第二回牧島大臣資料2-1「産業からの変革」参照)

■ デジタル田園都市の実現に向け、様々なプロジェクトを、持続可能な産業へと育てていく仕組み作りに取り組む

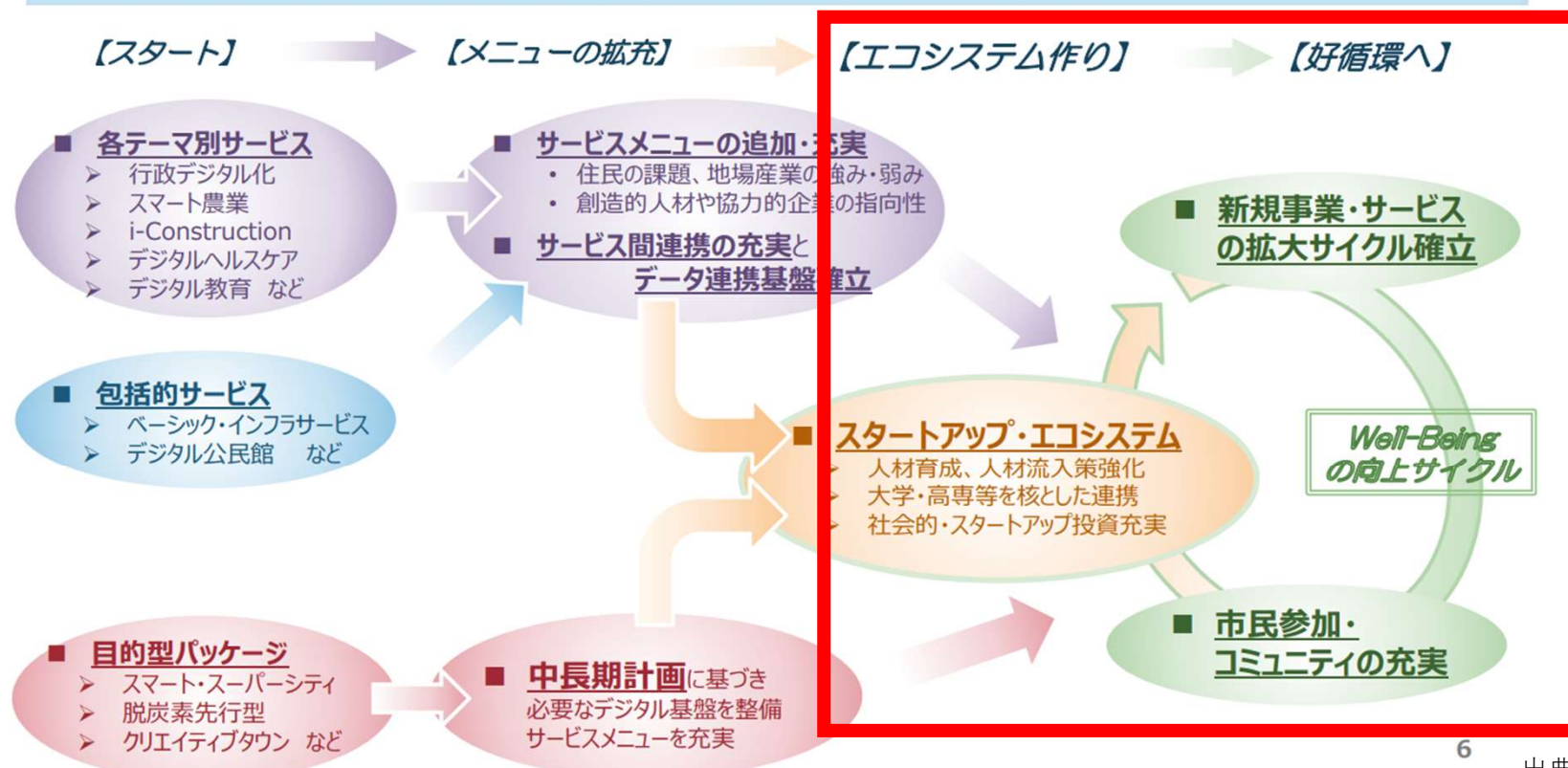
- Step1: 内外の人材を呼び込む政策を強化し人の流れを作り、密度の濃い空間に集める (シーズの創出)
- Step2: 国の支援策や企業の支援などを活用し、デジタルを活かした様々なプロジェクトを組成する (データとプロジェクトの創出)
※Step2、3ではサービス間連携やデータ連携基盤への投資を支え合う、共助のビジネスモデルを確立する
- Step3: プロジェクトを持続可能な新産業に育てるため、スタートアップ・エコシステムを確立する (エコシステムの創出)



出典：デジタル庁資料

Step2→3 : スタートアップ・エコシステムの構築へ

- はじめ方は様々。徐々に、サービスメニューの追加・充実に進み、同時にサービス間連携の充実やデジタル基盤の確立へ移行。ただし、プロジェクトの数を単に増やすだけでは、サービスは持続可能な事業にはならない。
- ある程度事業密度が上がってきたら、スタートアップ・エコシステムの強化に進み、スタートアップ支援→新事業・サービスの拡大→市民参加・コミュニティの充実と、Well-Being向上を目指す好循環サイクルを各エリアで実現



デジタル・スマートシティ浜松 各分野の取組

ウェルネス分野 健康寿命日本一

市民がいつまでも健康で幸せに暮らせる
「予防・健幸都市」の実現を目指し、官民
で取組を推進。

<プロジェクト例>

- 生活習慣病保有者に対する生活習慣
改善支援プログラム
- 健康診断のビッグデータ活用
プロジェクト



モビリティ分野

浜松版MaaS

浜松版MaaS構想に基づき、広大な市域や
自動車産業が盛んな都市の特徴を活かした
取組を推進。

<プロジェクト例>

- 浜松テレワークパーク構想の推進
- デリバリープラットフォーム構築・利用促進
- 共助型交通の推進



エネルギー分野 浜松市域 "RE100"宣言

再生可能エネルギー導入容量日本一の
特徴を活かし、産学官金によるプラット
フォームを形成し、様々なスマート
プロジェクトを推進。

<プロジェクト例>

- マイクログリッド事業
- エネルギーベストミックスによる
電力確保



農林業分野

もうかる農業・ 林業成長産業化推進

生産性の向上や付加価値の創出に向けた、
ICT活用によるスマート農林業の推進。

<プロジェクト例>

- スマート農業の推進（補助金）
- 次世代施設園芸施設の導入
- 林道管理システムの構築



地域の共助や共創を支え、持続的に発展するデータ連携基盤の環境整備に向けて 26

Code for Japanの“Make our City”プロジェクトとの連携

Make our City



「わたし」主体のまちづくりを通してウェルビーイングを実現する

サービスレイヤー



関係人口



スタートアップ



シビックテック



NPO等

※牧島 前デジタル大臣の浜松市視察

※サービスを創出するコミュニティの活性化が重要

都市OS
(データ連携基盤)

やらまいか精神

デジタルファースト宣言
デジタル・スマートシティ構想
条例 (パブコメ中)

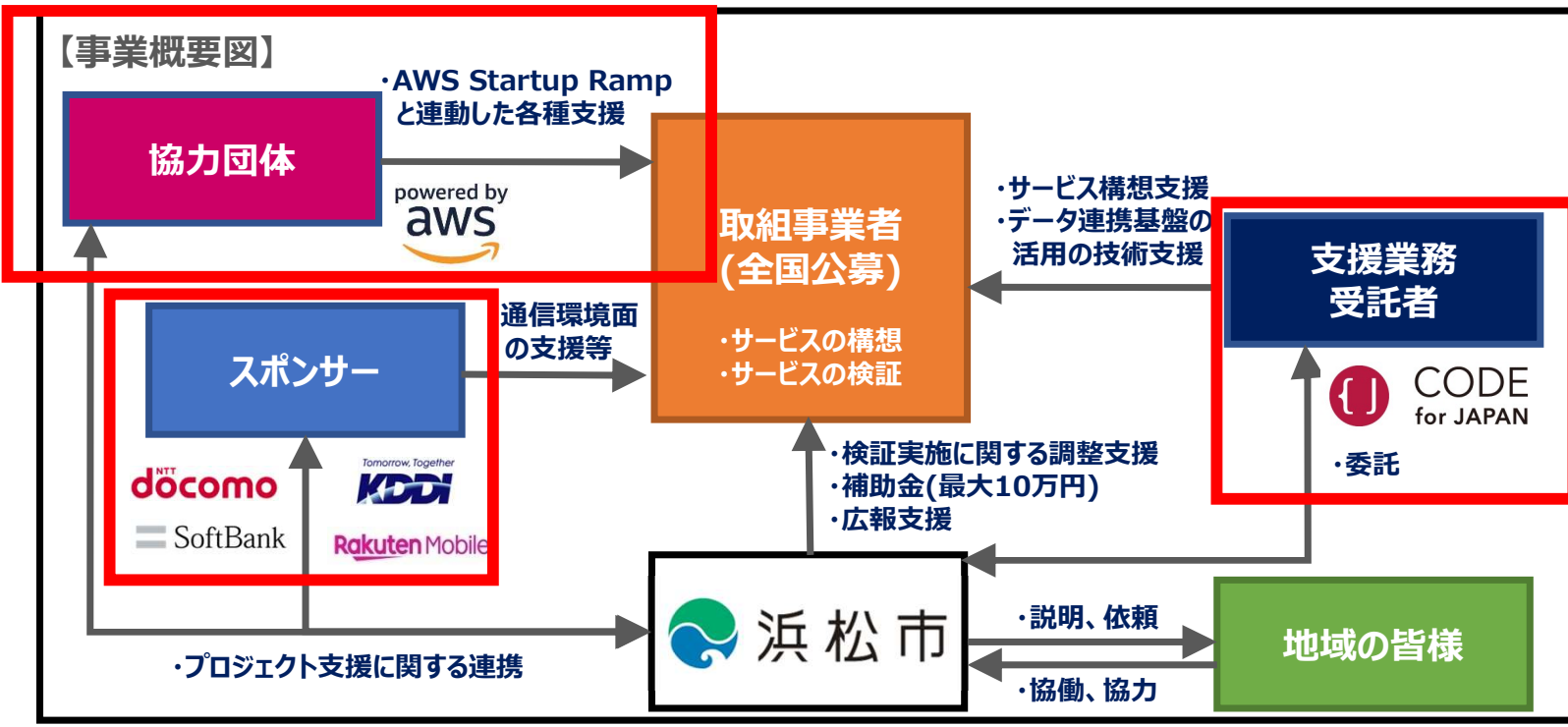
よそ者に寛容な土地柄



地域の共助や共創を支え、持続的に発展するデータ連携基盤の環境整備に向けて

➤ **Hamamatsu ORI-Project** (Hamamatsu **O**pen **R**egional **I**nnovation Project)
正式名称：浜松市データ連携基盤活用モデル事例創出事業

事業の目的 データ連携基盤を有効活用した新たなサービスやアプリケーションの創出



アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社と連携協定を締結

Digital Smart City HAMAMATSU

＜協定の名称及び目的等＞

名 称：

「デジタル・スマートシティのエコシステム形成に関する連携協定」

締結日：

2022年9月15日

目 的：

人口減少・少子高齢化時代において、市民の幸福感（Well-being）が溢れ、イノベーションが継続的に創発される活力ある地域を目指し官民共創で取り組むデジタル・スマートシティのエコシステム形成に両者で連携して取り組むことを目的とします。

＜連携内容＞

- （1）スタートアップの支援に関すること
- （2）シビックテックコミュニティの活性化に関すること
- （3）人材育成に関すること
- （4）インターネットやクラウド活用におけるセキュリティ対策に関すること
- （5）デジタル・スマートシティやスタートアップの推進に係る情報発信に関すること
- （6）その他、目的の達成のために必要と認められる事項



地域の共助や共創を支え、持続的に発展するデータ連携基盤の環境整備に向けて

29

Digital Smart City
HAMAMATSU

▶ Hamamatsu ORI-Project (Hamamatsu Open Regional Innovation Project)

正式名称：浜松市データ連携基盤活用モデル事例創出事業

R4年度推奨テーマ

市民の安全・安心



防災、防犯、交通事故対策など市民の安全・安心な暮らしにつながる取組

【設定の背景】

- ・地滑りによる国道の通行止めが長期間継続
- ・近年の台風や豪雨による水害が発生
- ・人身交通事故数が12年連続で政令市ワースト1

複数分野の連携



分野を超えたデータ連携により、市民のQoL(生活の質)向上や本市の課題解決を図る取組

【設定の背景】

- ・浜松市デジタル・スマートシティ構想の下、「エネルギー」、「モビリティ」、「防災」、「健康・医療・福祉」、「農林業」、「教育・子育て」、「観光・商業」、「産業（ものづくり）」、「デジタル・ガバメント」の分野間連携に注力

令和4年度の事業検証支援先

- ・ 下記の5者に対し、令和4年8月～令和5年2月に掛けて事業検証支援を実施します。

■ 国際航業株式会社（本社所在地：東京都新宿区）

サービス名「**道路パトロール業務の効率化 ～道路パトロールシステム～**」

■ 株式会社JX通信社（本社所在地：東京都千代田区）

サービス名「**リスク関連情報収集サービス「FASTALERT」と「NewsDigest」を利用した地域防災力向上・地域活性化に向けた取り組み**」

■ 株式会社アール・スリー（本社所在地：神奈川県横浜市青葉区）

サービス名「**EDiTuS My City HAMAMATSU**」

■ ユニソック合同会社（本社所在地：静岡県駿東郡長泉町）

サービス名「**『AVS』 Active Volunteer System ～ボランティア体験を通して、個人の主体性を高める法人向けサービス～**」

■ 下記4社による連携体

・ 株式会社GreatValue（連携体の代表、本社所在地：東京都港区）

・ イーデザイン損害保険株式会社（本社所在地：東京都新宿区）

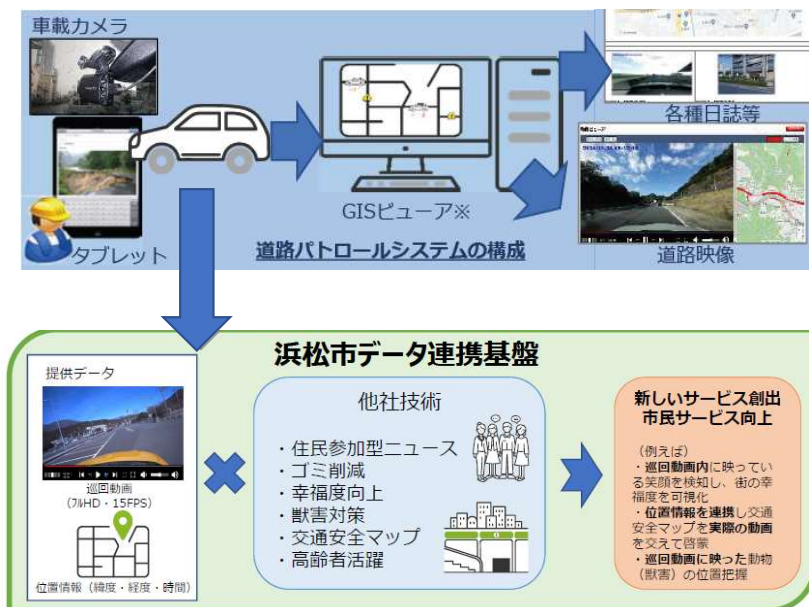
・ 株式会社Helte（本社所在地：千葉県柏市）

・ 株式会社トラスト・アーキテクチャ（本社所在地：東京都港区）

サービス名「**浜松市の生活を情報で支援する浜松ヒーローズ**」

個別プロジェクトのご紹介①

国際航業(株)



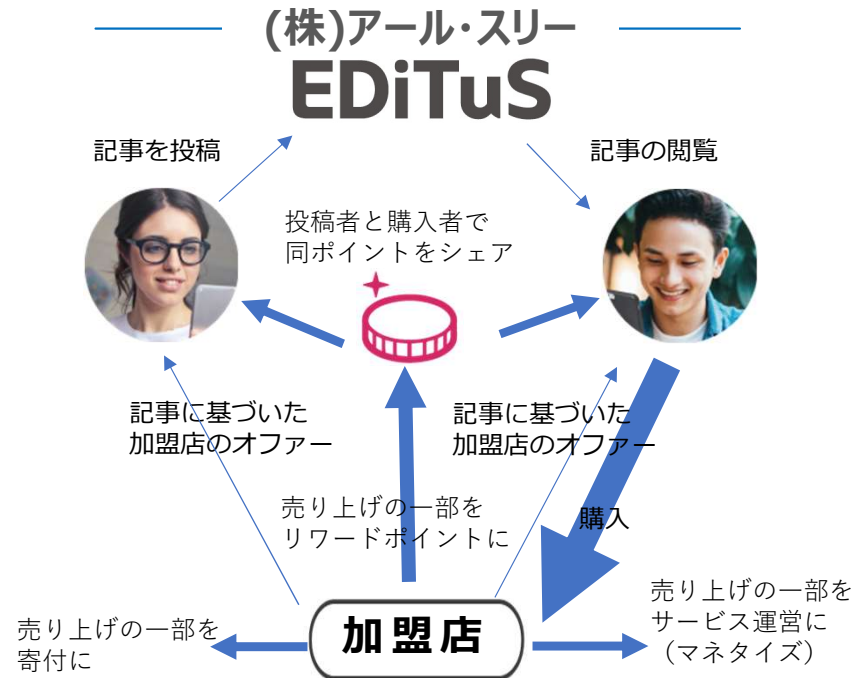
サービス名称	道路パトロール業務の効率化 ～道路パトロールシステム～
サービス概要	道路パトロールカーにスマホやタブレットを設置して道路状況を撮影し、位置情報と併せて記録を行うことで、人的負担の重い道路パトロール業務の効率化を図る。データ連携基盤との連携により、位置情報と紐づいて記録した動画・静止画の様々な分野への活用を検討。

(株)JX通信社



サービス名称	リスク関連情報収集サービス 「FASTALERT」と「NewsDigest」を利用した地域防災力向上・地域活性化に向けた取り組み
サービス概要	SNSの情報をAIで集約し、現に発生している事故や災害等の情報を位置情報と併せて整理できる「FASTALERT」とユーザーからの情報投稿アプリ（報酬付）「NewsDigest」から得られる情報を組み合わせ、データ連携基盤を介して、危険情報・リスク情報を可視化。

個別プロジェクトのご紹介②



サービス名称	EDiTuS My City HAMAMATSU
サービス概要	店舗・EC・観光関連等を中心に、オススメ情報や感想等を投稿できるアプリ（ECサイトや予約サイトと連動し、売上につながる投稿をした人及び購買行動を行った人にポイントを付与）を市内で検証。データ連携基盤を活用してユーザーの行動実績データ・移動データを集計し、分析・可視化。

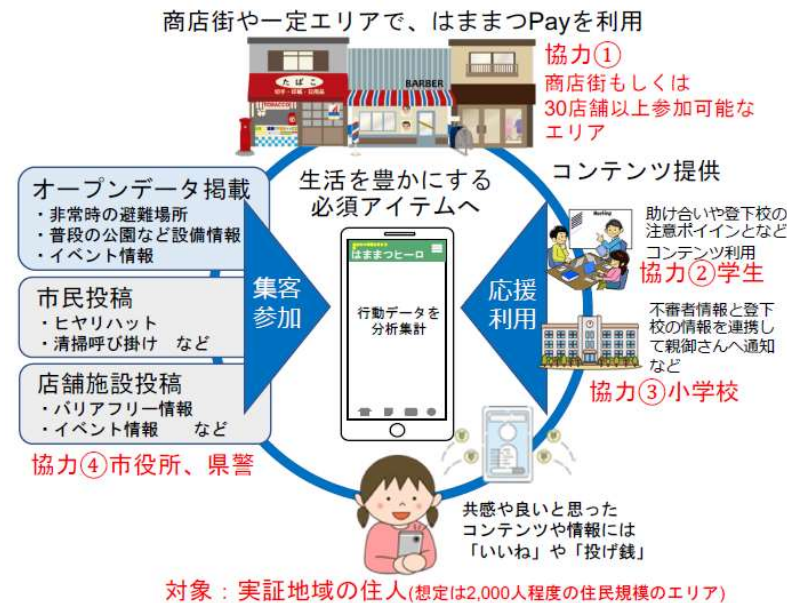
ユニソック合同会社



サービス名称	『 AVS 』 Active Volunteer System ～ボランティア体験を通して、個人の主体性を高める法人向けサービス～
サービス概要	様々な主体が個別に発信している、浜松市内のボランティア情報について、専用のLINEアプリを通じて集約して発信し、実際の参加実績を集計。データ連携基盤を活用し、ボランティア実績からエリア別の「SDG s スコア」を分析・可視化。

個別プロジェクトのご紹介③

(株)GreatValueを代表とする4者連携



体制

- 株式会社GreatValue
連携体の代表、助け合いプラットフォーム運営
- イーデザイン損害保険株式会社
親子で活用できる、地域内の危険箇所投稿アプリ「もしかもマップ」のプラットフォーム上での運営
- 株式会社Helte
日本語で外国人と話せるアプリ「Sail」のプラットフォーム上での運営
- 株式会社トラスト・アーキテクチャ
プラットフォーム関連のデータ分析・可視化

サービス名称	浜松市の生活を情報で支援する浜松ヒーローズ
サービス概要	事業構想支援ワークショップを通じて連携した4団体による共同提案。 地域での助け合いに対し、加盟店で活用できるポイントを付与できるアプリ「ヒーローズ」をプラットフォームとし、親子で活用できる地域内の危険箇所投稿マップ、日本語で外国人と話せるアプリ等の複数サービスや、オープンデータ等における地域にまつわる情報発信サービス等の複数のコンテンツを組み合わせ提供することで、地域の活性化を図る。 紐づいた各サービスから得られる情報（ユーザーの投稿による危険箇所情報、ユーザーの多文化交流時間の集計、ユーザーの購買状況等）をデータ連携基盤を活用して匿名化して集約・分析することで、新たな価値の提供を目指す。

官民連携によるデータ連携基盤のユースケース創出

- Hamamatsu Ori-Projectの採択事業者、（一社）コード・フォー・ジャパンのメンバー、本市の庁内ワーキンググループ データ連携基盤部会メンバーの参画の下、専用のSLACKチャンネルを新たに立ち上げ、官民連携によるデータ連携基盤のユースケース創出の取組を活発化させます。



Hamamatsu
Open Regional
Innovation

ORI-Project採択事業者
(過年度採択者も含む)



CODE
for JAPAN

コード・フォー・ジャパン

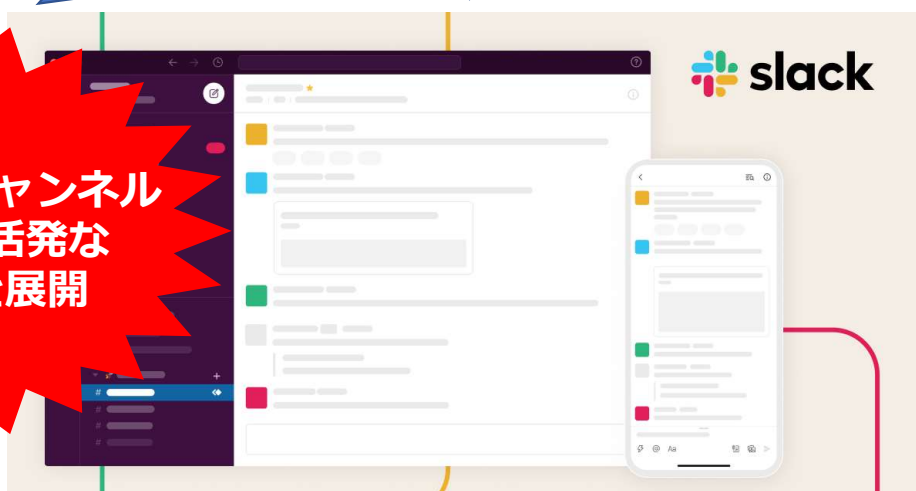


浜松市

庁内ワーキンググループ
データ連携基盤部会



専用SLACKチャンネル
を中心に、活発な
意見交換を展開



デジタル田園都市国家構想推進交付金を活用したデジタル実装

デジタル田園都市国家構想推進交付金 デジタル実装タイプ^① の概要

＜令和3年度補正一般会計 20,000百万円の内数＞

目的

- デジタルを活用した意欲ある地域による自主的な取組を応援し、「デジタル田園都市国家構想」を推進するため、デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上の実現に向けた地方公共団体の取組を交付金により支援。

概要

- デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上に向けて、
- データ連携基盤を活用し、複数のサービス実装を伴う取組（TYPE 2・3）
 - 他の地域等で既に確立されている優良モデル・サービスを活用した実装の取組（TYPE1）
- を行う地方公共団体に対し、その事業の立ち上げに必要なハード／ソフト経費を支援。

詳細

＜TYPE別の内容＞



※申請上限数：都道府県 9事業 市町村 5事業

○要件（TYPE共通）

- デジタルを活用して地域の課題解決や魅力向上に取り組む
- コンソーシアムを形成する等、地域内外の関係と連携し、事業を実行的、継続的に推進するための体制の確立

※TYPE 2・3については、官民および民間事業者間での相互連携性の確保など、デジタル原則への準拠を求める。

＜対象事業の例＞



＜中長期的取組＞

事例の採択・フォローアップや好事例の情報発信により、地域のデジタル実装を強力に支援し、「デジタル田園都市国家構想」を推進。



効果

意欲ある地域における地域の課題解決や魅力向上に向けた先導的なデジタル実装の取組を支援し、地方から国全体へのボトムアップの成長を実現することにより、デジタル田園都市国家構想を推進。デジタルの実装に取り組む地方公共団体：1000団体（2024年度末）を目指す。

デジタル田園都市国家構想推進交付金を活用したデジタル実装

デジタル実装タイプ（TYPE2/3）の採択結果

- デジタル田園都市の実現に向け、様々なプロジェクトを持続可能な産業へと育てていく仕組み作りが重要。このため、TYPE2/3では、各テーマ別取組（TYPE1）から一歩進め、広域連携や特定分野を核に対応分野を広げるタイプ、技術を工夫し応用分野を広めるタイプ、一挙に、包括的サービスの提供や総合的なスマートシティの構築に進むタイプなど、いくつかの特徴ある取組を採択。



デジタル田園都市国家構想推進交付金を活用したデジタル実装

デジタル実装タイプ（TYPE2/3）の採択結果 <主な採択事例③-1>

<シビックテック・エコシステム型>

TYPE2 静岡県 浜松市

【採択額 約0.91億円(国費)】

「データ活用による持続可能な「Well-beingスマートシティ」の共創」

実施地域	静岡県浜松市	事業費	181,140千円
実施主体	浜松市、浜松市デジタル・スマートシティ官民連携プラットフォーム会員（2022年4月7日時点で174者）等		
事業概要	①データ連携基盤の構築・運用に加え、3D都市モデルや中山間地域の通信環境等の都市を支えるデジタルインフラを増強し、 ②スタートアップやシビックテックの力を活かし、データ連携基盤を活用したサービスの官民共創と地域実装を図るとともに、 ③市民参加型合意形成プラットフォーム「Decidim」とWell-being指標可視化ダッシュボードの導入と活用促進を通じ、市民が支え合い、Well-beingを向上できるまちづくりを推進する。 “国土縮図型都市”である浜松市において、デジタル化による持続可能な都市モデル(リファレンス・シティ)を確立する。		

取組内容

多様な主体の共創による持続可能な「Well-beingスマートシティ」の実現に向けて次の取組を一体的に推進する。

①都市を支えるデジタルインフラの整備

- ◎浜松市データ連携基盤の構築・運用 <本交付金の充当対象外>
- ◎3次元点群データに基づく3D都市モデルの整備
- ◎中山間地域における通信環境（LPWA）の整備

②データ連携基盤を活用したサービスの官民共創と地域実装

- ◎Hamamatsu ORI-Project（官民連携によるデータ連携基盤活用モデル創出事業）の実施 <本交付金の充当対象外>
- ◎データ連携基盤を有効活用するサービスの実装を支援する補助制度を創設し、様々な分野の民間サービスの地域実装を促進
【防災】土砂災害対策（のり面等のモニタリング）、水害対策（冠水エリア推測）、
【環境】河川ごみの見える化・削減促進、【Well-being】AI笑顔検知と連動した寄附
- ◎中山間地域における林業者見守りサービスの実施
- ◎AIを活用したデータ分析による交通事故対策の実施

③市民が支え合い、Well-beingを向上できるまちづくりの推進

- ◎市民参加型合意形成プラットフォーム「Decidim」の導入・運用
- ◎Well-being指標の調査・分析と専用ダッシュボードによる可視化



デジタル田園都市国家構想推進交付金を活用したデジタル実装

38

Digital Smart City HAMAMATSU

デジタル実装タイプ（TYPE2/3）の採択結果 <主な採択事例③-2>

<シビックテック・エコシステム型>

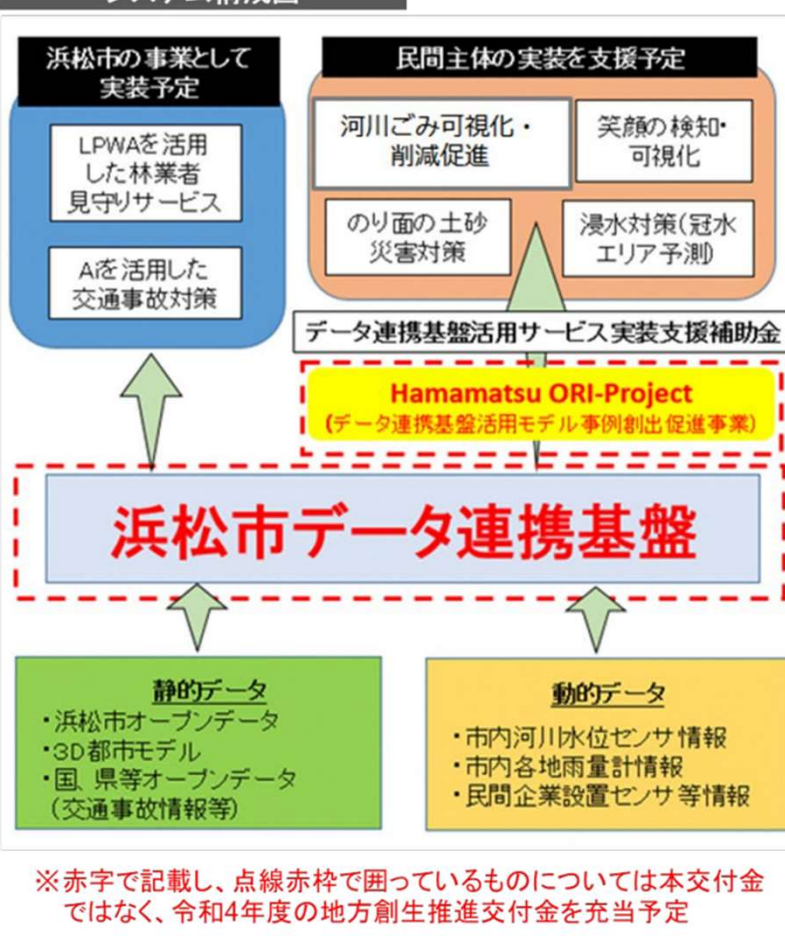
TYPE2

静岡県 浜松市

実施体制図



システム構成図



取組内容

【①都市を支えるデジタルインフラの整備】

3次元点群データに基づく3D都市モデルの整備



1 目的

3次元の地理空間データに「建物情報」、「災害リスク」等の都市活動に係る様々な属性情報を付加した「3D都市モデル」を整備し、都市計画立案や災害対策のシミュレーション、デジタルツインなど、デジタル技術をまちづくりに活用し、持続的に発展する都市づくりを推進する。

2 事業概要

- ◎本市の都市計画区域内について、静岡県が取得した3次元点群データや本市の都市計画基礎調査等を使用し、「建物情報」、「災害リスク」等の属性情報を付与した「3D都市モデル」を構築する。
- ◎中でも、都市機能誘導区域については、様々なシミュレーションや分析等に活用できるよう、地物や建物形状等の高精度化を行う。
- ◎作成した3D都市モデルは、行政だけでなく、民間企業（建設分野、モビリティ分野）や研究機関など様々な主体による有効活用を促進し、新たなビジネスのイノベーションの活性化や地域課題の解決等につなげるため、オープンデータとして公表する。

【①都市を支えるデジタルインフラの整備】 【②データ連携基盤を活用したサービスの官民共創と地域実装】

LPWA整備・活用によるスマート林業の促進

1 目 的

市内の森林においてLPWA※を活用した通信インフラを整備し、林業従事者にLPWAインフラを活用したサービスを利用してもらい、林業従事者の安全確保と生産性を高める。

※LPWA（Low Power Wide Area）…通信速度が遅く一度に送信できるデータ容量は小さいが、消費電力が少なく遠距離通信が可能な無線技術の総称。LPWAは複数種類あり、活用手法も多い。

2 事業概要

（1）LPWA整備

市内森林のうち、約350haのモデル地域を設定し、LPWA通信インフラを整備（親機1台、中継器8台、子機20台導入）。

（2）LPWAを活用したスマート林業の促進

- ①安全確保対策：林業従事者の携帯圏外でのコミュニケーションやトラブル対応、
- ②生産性向上対策：木材運搬車や林業機械の位置把握による木材生産効率化、可能なアプリを格納した専用端末を林業事業体等に貸し出し、活用してもらう。



【②データ連携基盤を活用したサービスの官民共創と地域実装】

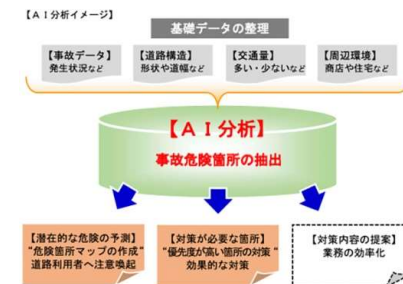
AIを活用したデータ分析による交通事故対策

1 目 的

交通事故要因の分析にAI（人工知能）を導入し、危険箇所を効率的に把握することで、交通事故の削減を図る。

2 事業概要

- ◎ 過去の交通事故データや本市の道路情報等の様々なデータを収集・統合し、AI分析に適した基礎（教師）データの整理を行う。
- ◎ そのうえで、①AIを活用した、過去の事故情報、道路情報、地域特性等のデータに基づく交通事故危険箇所の予測、②抽出した危険箇所のマップ上での可視化、③AIを活用した、抽出した事故危険箇所における有効な対策の検討、の3点についてR4年度から実施する。
- ◎ R5年度には、R4年度に整理した基礎（教師）データ及び構築した予測モデルを効率的に運用するAI分析システムの開発とその効果検証を実施する。



【③ 市民が支え合い、Well-beingを向上できるまちづくりの推進

市民参加型合意形成プラットフォーム

「Decidim」の導入・運用



1 目 的

市民参加型合意形成のデジタルプラットフォームを導入し、あわせて多様な主体に活用を促進することで、市民が支えあい、Well-being（地域に暮らす人が幸福を感じている状態）を実現できるまちづくりを推進する。

2 事業概要

- （１）市民参加型合意形成プラットフォーム（Decidim）の導入
オンライン上に市民・事業者・行政がアイデアを出し合い、意見交換や議論がオープンに行える場であるDecidimを構築する。
- （２）Decidim活用に向けたワークショップの企画・実施
Decidimを様々な分野（政策立案、多様なニーズ反映、公共空間活用…）に活用し、活発かつ有用な意見交換が行えるよう、様々な主体を対象にオンラインとオフライン両方でワークショップ（他都市活用事例を参考としたテーマ選定に沿ったDecidimでの議論等）を企画・実施する。

【③ 市民が支え合い、Well-beingを向上できるまちづくりの推進】

Well-being指標の調査・分析と 専用ダッシュボードによる可視化

1 目 的

地域に暮らす人が幸福を感じている程度を測る指標となる「Well-being指標」を整備・可視化することで、合理的な根拠に基づいた政策立案や進捗管理、継続的な業務改善を可能とし、官民共創によるWell-Being向上に向けた効果的な取組を促進する。

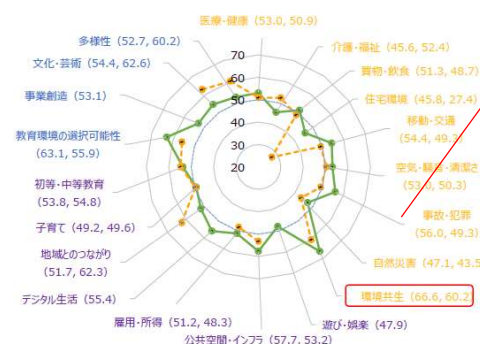
2 事業概要

(1) Well-being指標測定事業

主観的な性質のWell-being指標に関し、指標設定の支援を受けるとともに、市民向けにWebアンケートやインタビューによる調査を実施、計測し分析する。

(2) Well-being指標可視化事業

計測されたWell-being指標について、わかりやすく使いやすい形で常時公表するため、専用のダッシュボードを整備する。



指数	総合	身体	社会	精神
客観	66.6	67.6	64.2	68.0
主観	60.2	58.5	60.2	61.9

幸福度を「客観」、「主観」と「身体」、「社会」、「精神」のような要素ごとに因数分解し、可視化を実現。EBPMを推進。

データ連携基盤活用サービス実装支援補助金について

- ・ 過年度のHamamatsu ORI-Projectの支援案件など、データ連携基盤を活用したサービスの地域実装に向けた取組に掛かる経費を補助。
- ・ 令和4年度の新規事業であり、デジタル田園都市国家構想推進交付金（デジタル実装タイプ TYPE 2）を充当。

1 目 的

本市においてデータ連携基盤を活用したサービスの実装（調査や実証実験にとどまらず、継続的なサービス提供を開始すること）に向けて取り組む民間企業を支援し、データ連携基盤を有効活用した先端サービスの実装により本市の課題解決や市民QoL（生活の質）の向上を図るとともに、本市発の新たなイノベーションの創出を目指す。

2 事業概要

◎データ連携基盤を活用したサービスを本市において早期に実装することを目指して取組を行う事業者に対し、その取組に必要な資機材のリース費用、取組の協力者への謝金、国内の交通費等を補助する「浜松市データ連携基盤活用サービス実装支援補助金」を創設し、運用する。

◎補助金額は、補助上限額200万円/件、補助率2/3以内

令和4年度の補助事業採択先

下記の4者に対し、補助金の交付決定を行った

■株式会社オサシ・テクノス（本社所在地：高知県高知市）

補助事業名

「冠水エリア予測システム」

■株式会社フジヤマ（本社所在地：静岡県浜松市中区）

補助事業名

「浜松市データ連携基盤を活用した斜面表層崩壊モニタリングサービス構築業務」

■八千代エンジニアリング株式会社（本社所在地：東京都台東区）

補助事業名

「河川を流下する人工系ごみ（プラ含む）輸送量データに基づくごみ削減対策」

■一般社団法人One Smile Foundation（本社所在地：神奈川県横浜市保土ヶ谷区）

補助事業名

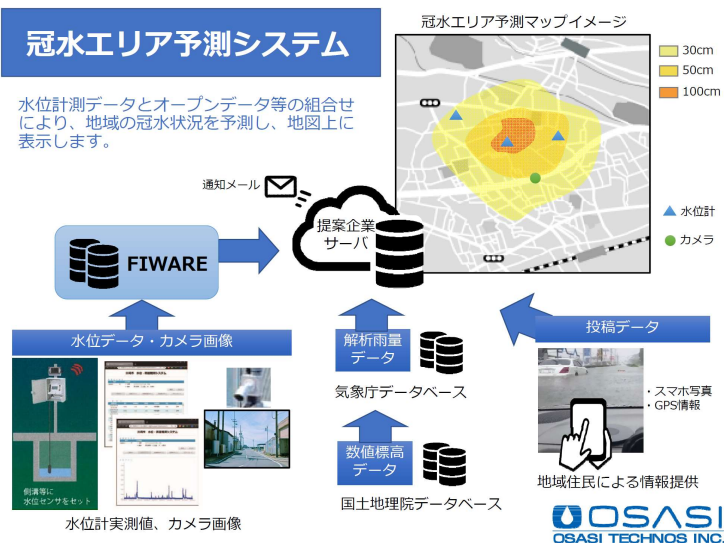
「高齢者施設におけるSmiral－スマイラー－の実装事業」

個別の補助事業のご紹介①

(株)オサシ・テクノス

冠水エリア予測システム

水位計測データとオープンデータ等の組合せにより、地域の冠水状況を予測し、地図上に表示します。



サービス名称 冠水エリア予測システム

サービス概要 令和2年度のHamamatsu ORI-Projectの支援案件。
市内の冠水が発生するエリアの中で、水深が最大になると考えられる地点付近に水位センサを設置し、その水深と国土地理院の数値標高データを組み合わせることで、リアルタイムに冠水している領域を推測し、地図上で色分けして可視化する。

(株)フジヤマ

中山間地域等の危険箇所をセンサーでリアルタイムに監視



クラウドGIS上で、速やかに可視化し、情報共有

サービス名称 浜松市データ連携基盤を活用した斜面表層崩壊モニタリングサービス構築業務

サービス概要 令和3年度Hamamatsu ORI-Projectの支援案件。
中山間地域の山林等の危険箇所を抽出し、抽出した箇所にIoT振動センサーを設置し、斜面崩壊の危険に関してリアルタイムでデータの収集とモニタリングを行い、データ連携基盤を介してクラウドGIS上に可視化する。

個別の補助事業のご紹介②

—— 八千代エンジニアリング(株) ——



市内の河川にビデオカメラと水位計を設置し、定点監視。撮影した動画を独自技術で解析。

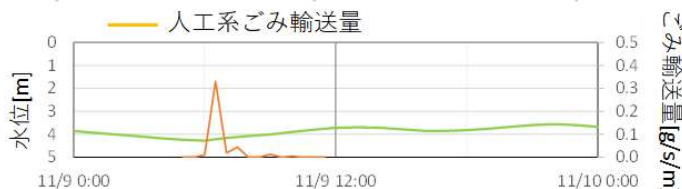
元動画



解析後



青：自然系ごみ
赤：人工系ごみ



サービス名称 河川を流下する人工系ごみ（プラ含む）輸送量データに基づくごみ削減対策

サービス概要 令和3年度のHamamatsu ORI-Projectの支援案件。市内の河川の水面をビデオカメラで定点撮影し、得られた動画について、RIAD（水表面の動画データから川を流れるごみの量を把握する技術）による分析を実施し、この分析データを元に、地図上にゴミ輸送量を可視化することで、清掃活動やゴミ削減活動等の活発化を促す。

（一社）One Smile Foundation



浜松市内の高齢者施設に専用のAI笑顔検知アプリを搭載したスマホ等を設置。

場所ごとの笑顔カウント数（1日単位）をほぼリアルタイムでアプリ画面に反映



今笑顔を検知したことが一目でわかるエフェクト



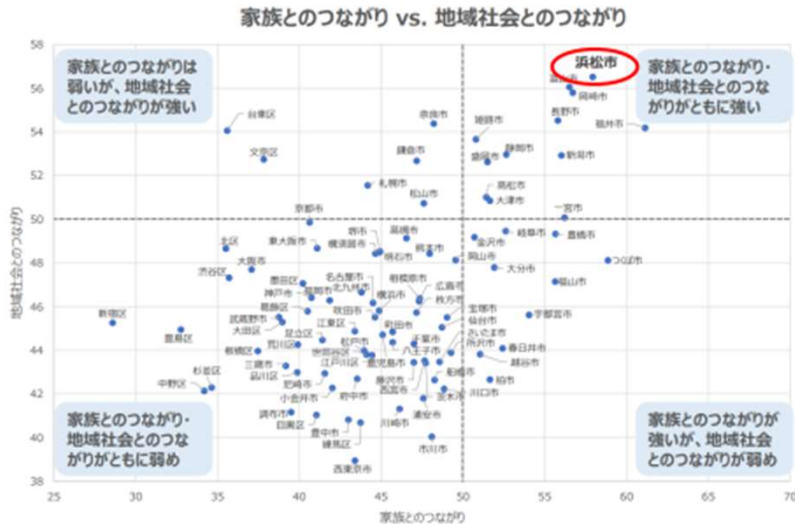
サービス名称 高齢者施設におけるSmiral-スマイラルの実装事業

サービス概要 令和3年度のHamamatsu ORI-Projectの支援案件。市内の高齢者施設に、AIによる動画認識で笑顔の検知とカウントを行う専用アプリをインストールした端末（スマホやタブレット等）を設置し、笑顔の検知とカウントを実施し、カウントした笑顔の回数×1円の寄附を行う。

LWCIから見た浜松市の特徴

【社会】

【社会】 社会関係資本を構成する「家族とのつながり」と「地域社会とのつながり」がともに高い都市は、浜松市や福井市



家族とのつながりを構成するKPI

- ・ 拡大家族世帯割合
- ・ 既婚者割合（15歳以上人口）
- ・ 高齢単身世帯の割合

地域社会とのつながりを構成するKPI

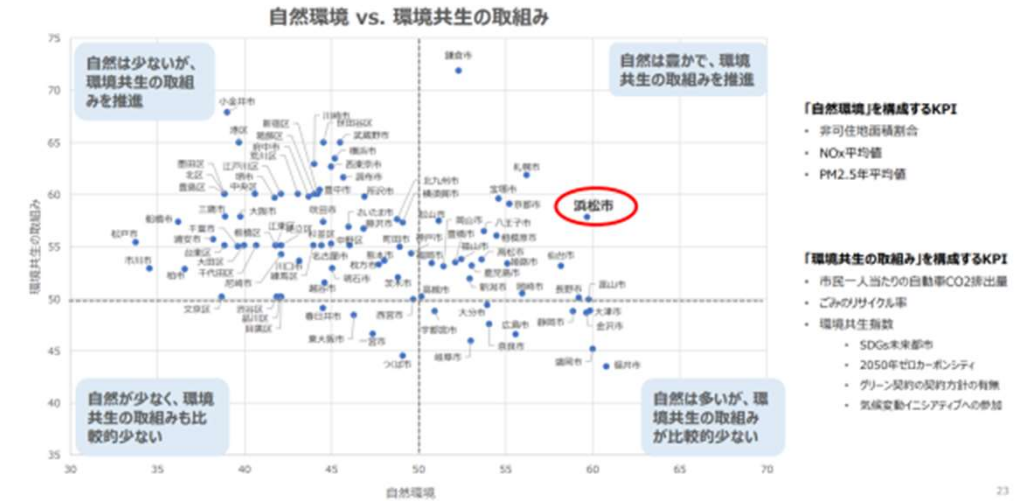
- ・ 居住期間が20年以上の人口割合
- ・ 自治会・町内会加入率
- ・ 10万人あたり政治・経済・文化団体の数
- ・ 10万人あたり宗教法人の数
- ・ 10万人あたりNPOの数
- ・ 首長選挙の投票率
- ・ 市区町村議会選挙の投票率

22

「家族のつながり」と「地域社会のつながり」がともに高い

【環境】

【環境】 自然環境が豊かで自治体や市民が環境共生の取組みを推進している都市は浜松市や札幌市。都心やヘッドタウンは自然が少ないが、環境共生の取組みは進んでいる



23

自然環境豊かで環境共生の取組みが進んでいる

出典：SCI作成資料

LWCIから見た浜松市の特徴

浜松市の概要：環境が豊かで地域のつながりが、全国トップレベル。医療・健康、子育て、雇用・所得、多様性にも強みがある等、押し並べて強みが目立つオールラウンドプレーヤー的。交通事故件数の多さ、自然災害リスクが課題

概要

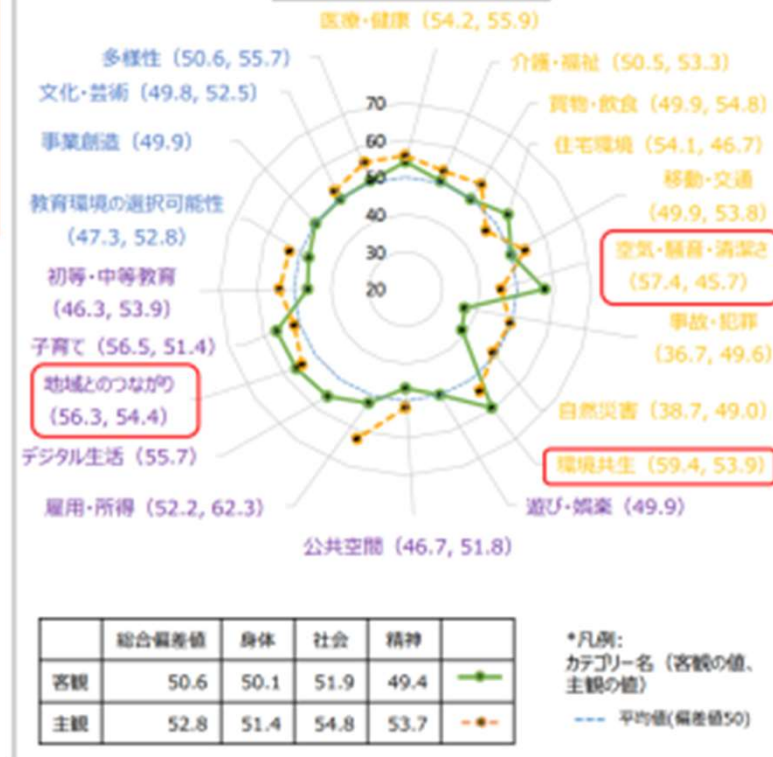
人口	約80万人	高齢化率	約26%
可住地人口密度	1,640人/km2	昼夜間人口比率	99%
都市の特徴・ 周辺地域との関わり	浜名湖を有する自然豊かな政令市。中部地方では名古屋市に次ぎ、静岡県および三遠南信最大の人口。市内に大手自動車メーカーの本社が所在し、周辺に自動車部品工場も多い工業都市。高速道路や新幹線駅もある周辺地域のリーダー。		
将来都市像	「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」		

サマリー

- 「自治会・町内会加盟率」、「選挙投票率」、「拡張家族世帯割合」等で示される地域とのつながりは、日本トップクラス。分厚い社会関係資本が、浜松市の顕著な強み。
- 続いて、自然環境（非可住地面積割合）が多く、空気・騒音・清潔さも高水準。環境共生に関する活動も活発と、自然環境との共存意識も高い。
- 病院・診療所、夜間・緊急医療体制、スポーツ施設等、医療・健康に関する満足度が高く、健康寿命は、男女ともに極めて高水準であることも大きな特徴。
- 市議会における女性議員の割合の高さや子供や若者の多さが顕著であり、多様性の評価が高い。
- 子育てに関しては、「歳出総額における教育費の構成比」が際立って高く、「合計特殊出生率」も高い。子育て環境に関する満足度も平均を上回る。
- 雇用も若年層から高齢者まで高い水準となっており、「仕事が見つけやすい」という主観的評価。

■ 全般的に主観・客観的に高水準のオールラウンドプレーヤー的なパフォーマンスであるが、交通事故件数の多さおよび自然災害リスクをどう減ずるかは課題。

カテゴリー別偏差値



主観データの出典：日経BP 総合研究所「シティブランドランキング2021」

出典：SCI作成資料

LWCIの活用 → 感覚的な部分が可視化される

LWCIの活用在先着手する4分野

選定の観点

- ◎ 市民の幸福度向上への寄与度
- ◎ デジタル・スマートシティの取組方針との親和性

ウェルネス分野

市民がいつまでも健康で幸せに暮らせる
「予防・健幸都市」の実現を目指し、官民
で取組を推進。



カーボンニュートラル／エネルギー分野

再生可能エネルギー導入容量日本一の特徴を
活かし、産学官金によるプラットフォームを
形成し、様々なスマートプロジェクトを推進。



交通／モビリティ分野

広大な市域や自動車産業が盛んな都市の特
徴を活かした取組を推進。



スタートアップ分野

スタートアップと地域のものづくり企業
との融合による新産業の創出を目指す。



ワークショップ

51

Digital Smart City
HAMAMATSU

LWCIを活用した政策や計画などの立案に関するディスカッションの様子



- ◎ LWCIに関する理解を深める
- ◎ 浜松市の政策体系・方向性とLWCIとの関係性を確認
- ◎ Well-Beingに向かう道筋について議論



分野ごとに
Well-being向上に向けたストーリーを作成

LWCIを官民連携で活用していくために

Well-Beingをテーマとしたオンラインフォーラムの開催



参加申込 <https://www.month.hdsc.city/forum2022>

LWCIを官民連携で活用していくために

デジタル・スマートシティ浜松 オンラインフォーラム プログラム

時 間	内 容
13:15-13:20	【開会挨拶】 浜松市長 鈴木 康友
13:20-13:50	【インプットセッション】 浜松市のWell-Beingや幸福度因子から見た本市の特徴 モデレーター：浜松市フェロー 南雲氏 パネリスト：浜松市長 鈴木 康友、浜松市フェロー 東氏、浜松市フェロー 白坂氏、 浜松ウエルネス推進協議会顧問 池野氏
13:50-14:30	【セッション1】 デジタルを活用した市民参加型のまちづくり モデレーター：(株)HEART CATCH 西村氏 パネリスト：浜松市フェロー 関氏、浜松市内で活動するコミュニティ 小林 氏、 はままつ子育てネットワーク ぴっぴ 原田氏、山ノ舎 中谷氏
14:30-15:10	【セッション2】 官民共創で目指すデータ連携基盤を活用したサービスの社会実装 モデレーター：浜松市フェロー 関氏 パネリスト：(株)フジヤマ 山浦氏、八千代エンジニアリング(株) 柴田氏 (株)オサシテクノス 古島氏、(一社)One Smile Foundation 辻氏
15:10-15:20	【休憩】
15:20-16:00	【セッション3】 デジタル・スマートシティ推進に係る人材育成 モデレーター：浜松市フェロー 日下氏 パネリスト：浜松市フェロー 南雲氏、浜松市フェロー 陳内氏、 静岡大学副学長 川田氏、浜松医科大学副学長 山本氏、AWS 大富部氏
16:00-16:50	【セッション4】 デジタル田園都市国家構想のリファレンスシティへ モデレーター：浜松市フェロー 東氏 パネリスト：浜松市長 鈴木 康友、浜松市フェロー 陳内氏、浜松市フェロー 関氏、 浜松市フェロー 日下氏、浜松市フェロー 南雲氏、浜松市フェロー 白坂氏、 浜松ウエルネス推進協議会顧問 池野氏

LWCIを官民連携で活用していくために

市民の幸福因子をテーマに、デジタル・スマートシティ官民連携PF
によるWSの開催やDecidimを活用した市民との意見交換を実施予定



WSの開催（10/27）

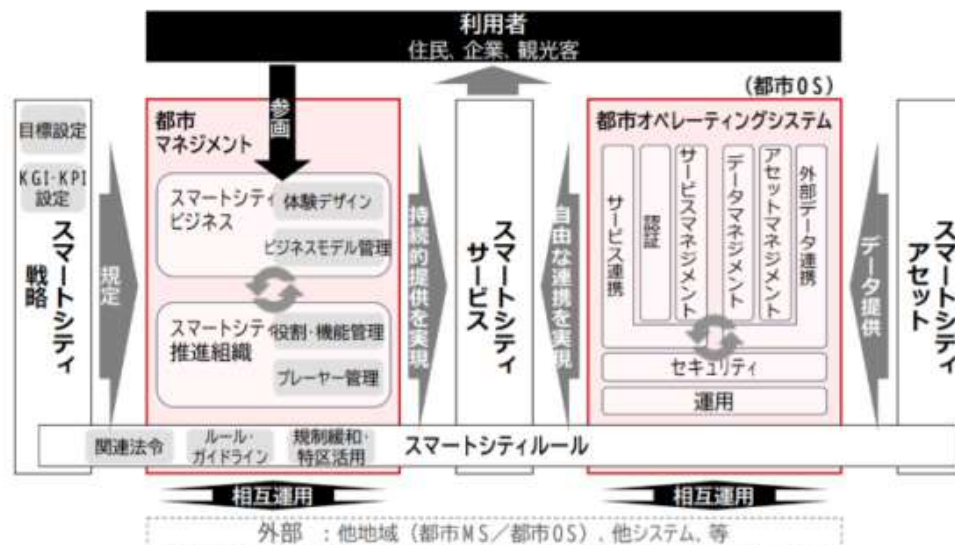




国土縮図型都市・浜松の特徴を活かし、 デジタル田園都市国家構想のリファレンスシティに！



国土縮図型都市・浜松



リファレンスアーキテクチャー



白坂フェロー



浜松市

- 多様な目的：国土縮図型で多様な対象への多彩なサービス
- 住民起点の都市OS：ユースケース駆動 & Make our City
- 官民協創型：トップのコミットメント、みんなが活躍

「やрмаいか」×「分析・整理」×「継続的進化」
＝ リファレンスシティ浜松

出典：白坂フェロー講演資料

最後に

Make our City!

©Code for Japan

Digital Smart City
HAMAMATSU



浜松から、やрмаいか！



Appendix

- (1) ウェルネス分野
- (2) モビリティ分野
- (3) エネルギー分野
- (4) デジタル・スマートシティの各種取組

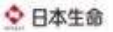
デジタル・スマートシティ浜松の推進【ウェルネス】

58

Digital Smart City
HAMAMATSU

「予防・健幸都市 浜松」の取り組み

- ▶ 浜松ウェルネスプロジェクトは、「予防・健幸都市」の実現を目指す官民連携プロジェクト。
- ▶ 浜松ウェルネス・ラボは、本プロジェクトにおける官民連携プラットフォームの1つとして、地域外の手企業と共に、市民の「疾病・介護予防」や「健康増進」に寄与する“浜松発”の様々な官民連携社会実証事業等を展開し、データやエビデンス等を取得。
- ▶ 取得データ等は、ウェルネスラボ内のデータプラットフォームに蓄積し、市は予防・健康づくり施策に活用、各社はビジネス展開に活用。

企業名 (50音順)	事業名	目的
 	1. 聖隷MCIスタディ	認知機能改善
	2. ロコトレ参加者等に対する脳の健康に関する介入	認知機能改善
	3. 中高齢者対象の嗅覚機能と気分・ストレス状態に関する調査研究	健康増進 (精神面)
	1. スミセイ“Vitality Action”	健康増進
	1. 脳ケアアプリによる早期認知機能低下予防	認知機能改善
	2. デジタル技術&ヒューマンタッチによる血糖コントロール	生活習慣病予防 (糖尿病)
	1. 健康増進アプリによる健康増進活動サポート	生活習慣病予防・健康増進
	2. IOT歯ブラシを活用したオーラルケアによる生活習慣病予防 (歯周病)	生活習慣病予防 (歯周病)
	1. ウォーキングアプリを活用した健康増進イベント (企業・事業所対抗ウォーキング大会)	健康増進

健康寿命 3 期連続日本一



浜松ウェルネスプロジェクト



浜松ウェルネス・ラボ



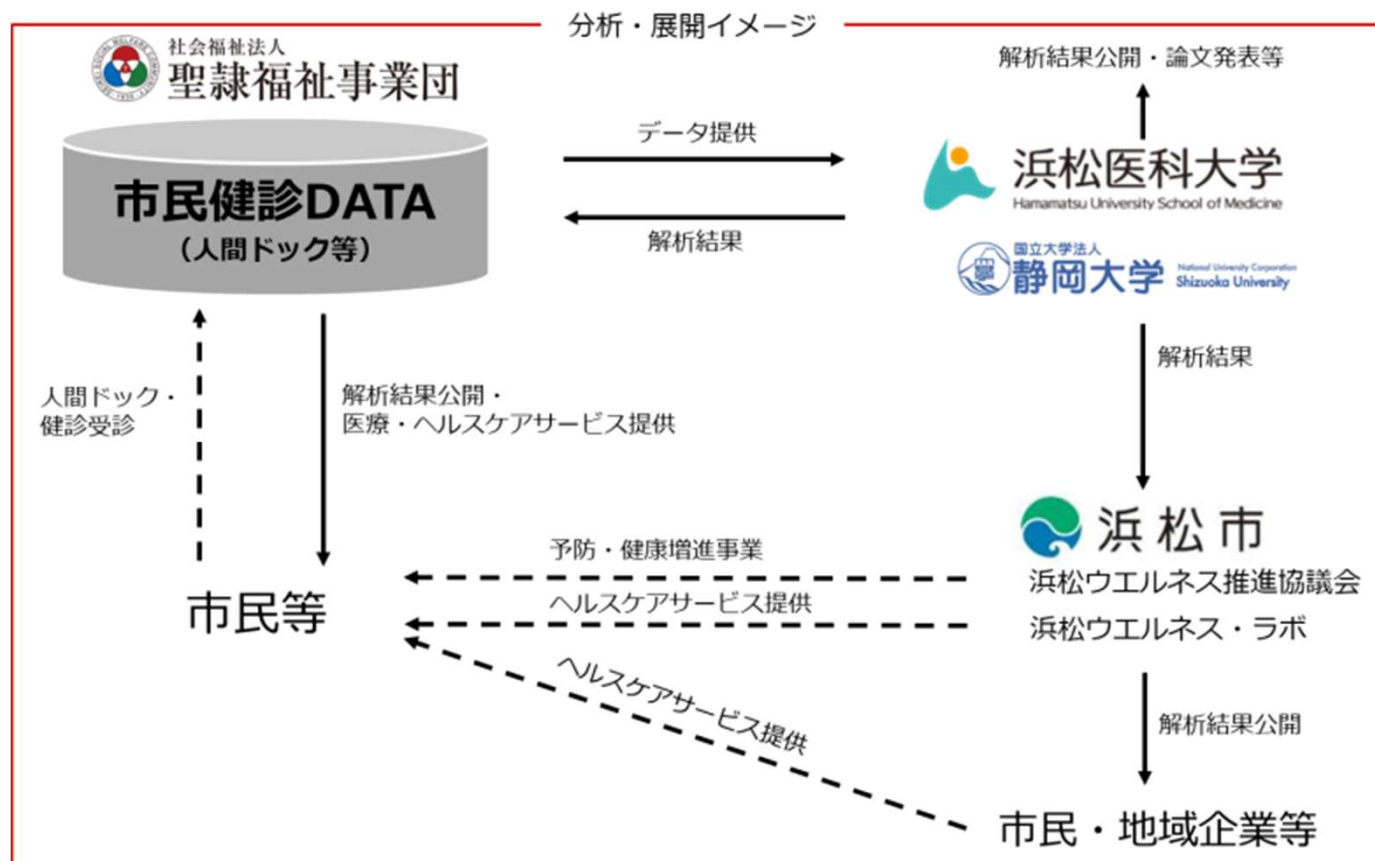
デジタル・スマートシティ浜松の推進【ウェルネス】

59

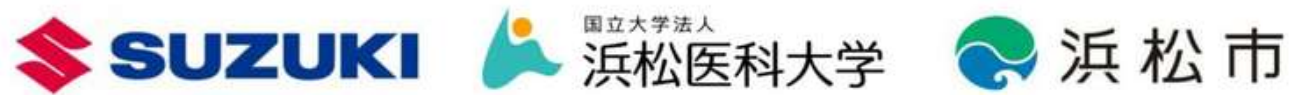
Digital Smart City
HAMAMATSU

健康ビッグデータ分析

- 聖隷福祉事業団、浜松医科大学、浜松市が連携して、聖隷福祉事業団が有する健診（人間ドック）ビッグデータを活用し、本市の健康寿命日本一の所以や本市（市民）が抱えている疾病リスクなど多角的かつ詳細に明らかにする。
- 市や関連団体等は、分析結果を「予防・健康増進都市」実現に向けた施策や各種事業に活用する。



デジタル・スマートシティ浜松の推進【ウェルネス×モビリティ】 60



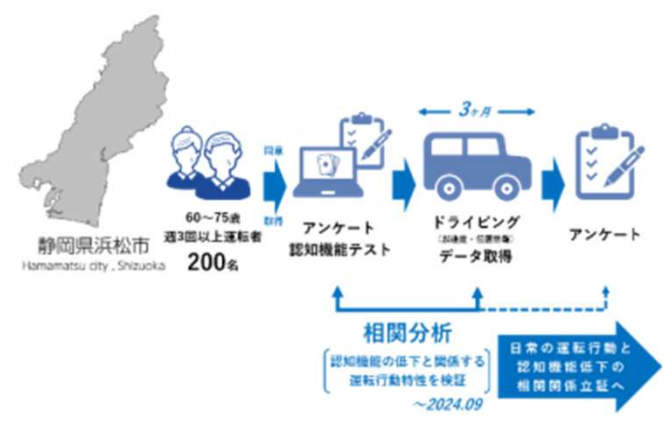
日常の運転と認知機能の関係性について、浜松市で実証事業を開始
～安全に長く運転を続けられる社会の実現を目指して～



目指したい社会
人生100年時代に、80・90歳になっても移動の自由を奪うことなく、
1日でも長く安全に、いきいきとした生活を実現したい。

そのために、毎日の通勤時に運転をしているだけで、
どこよりも早く認知症の兆候を検知し治療・予防に結び付ける

事業概要



- <対象>
浜松市在住等の60歳～75歳の健康成人
200名
- <方法>
- ① 認知機能テスト2種類(MMSE、
のうKNOW)とアンケートを実施
 - ② ドライビングデータを3ヶ月取得
 - ③ 認知機能テストの結果とドライビ
ングデータの相関関係を検証

デジタル・スマートシティ浜松の推進【モビリティ】

61

Digital Smart City
HAMAMATSU

浜松版MaaS構想

MaaS推進の考え方

喫緊の課題への対応（アプローチ①）と、未来へのチャレンジ（アプローチ②）を組合せて取り組みながら多様性・創造性といった浜松市の強みを最大化していきます。

市民協働で築く「未来へかがやく創造都市・浜松」
浜松市未来ビジョン実現への貢献

ヒト・モノ・コトをモビリティで“繋ぐ”ことで浜松の強みを最大化

多様な暮らし方（多様性） 市民・企業の共創／共創（創け合い） ものづくり力（創造性）

“交通・生活課題”の解決や
“安全・安心”な暮らし
の確保

アプローチ①
持続可能な地域を支える
モビリティサービス

アプローチ②
より豊かな生活を創造する
モビリティサービス

移動負担を軽減し
“賑わい・ワクワク”
を増進

蓄積

活用

モビリティサービス利用データ／人流データ

デジタル・スマートシティのデータ

推進体制：

市民・企業の主体的参加で創造性の高いエコシステムを形成していきます。



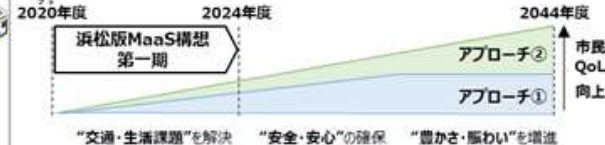
中核となる「浜松市モビリティサービス推進コンソーシアム」

官民が連携し、モビリティサービスを生み出すプロジェクト創出を支援しています。
「浜松市デリバリープラットフォーム」や「浜松テレワークパーク構想」など、様々なプロジェクトが立ち上がり、創造性の高いエコシステムを形成しています。



ロードマップ：

2020年度から2024年度の5年間で第一期と位置づけ、交通・生活課題解決から着手し、モビリティサービスの連携や官民共創の取組を推進し、浜松版MaaSの基礎固めを行います。



Foodelix



浜松テレワークパーク構想



持続可能な地域交通の確立

自家用車を活用した
乗り合いの促進



デジタル・スマートシティ浜松の推進【エネルギー】

Digital Smart City
HAMAMATSU

浜松市スマートシティ推進協議会

2050年までの二酸化炭素排出実質ゼロを目指し
浜松市域“RE100”を表明（令和2年3月）

- ・浜松版スマートシティ形成に関する産学官金プラットフォーム。
- ・浜松市をフィールドとして事業化に向けた様々なスマートプロジェクトを展開中



設立：平成27年6月22日

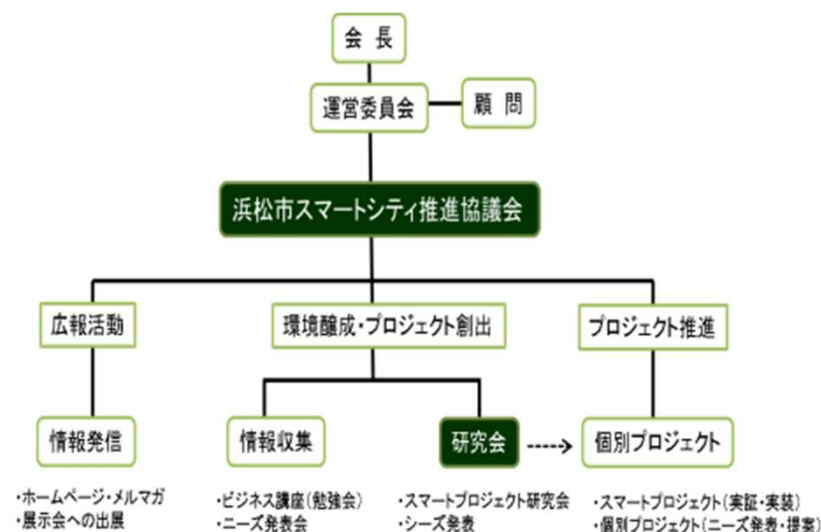
会員数：176団体（令和3年7月31日現在）

※75団体（設立時）

（会員内訳：市内81、市外95）

再生可能エネルギー導入容量 **全国第1位**

導入容量 587,582kW（令和2年3月末時点）



エネルギーベストミックスによる電力確保



「デジタルファースト宣言」の理念等の普及・浸透を図るとともに、先進技術を活用したサービス等に市民の方が触れる機会を設けることで、「デジタル・スマートシティ浜松」推進の機運を醸成する。

令和4年10月

※(国)令和4年以降は、毎年10月を「デジタル月間」、

毎年10月の第一日曜日・月曜日を「デジタルの日」に位置づけ
(令和4年は10月2日・3日)

- **主催事業**
 - 官民連携PFが開催するオンラインフォーラム
- **冠事業**
 - 企業や各種団体が実施するイベントやセミナー



デジタル・スマートシティ浜松 オンラインフォーラム

Well-Beingをテーマとしたオンラインフォーラムの開催



参加申込 <https://www.month.hdsc.city/forum2022>

デジタル・スマートシティ浜松 オンラインフォーラム

65

Digital Smart City
HAMAMATSU

プログラム

時 間	内 容
13:15-13:20	【開会挨拶】 浜松市長 鈴木 康友
13:20-13:50	【インプットセッション】 浜松市のWell-Beingや幸福度因子から見た本市の特徴 モデレーター：浜松市フェロー 南雲氏 パネリスト：浜松市長 鈴木 康友、浜松市フェロー 東氏、浜松市フェロー 白坂氏、 浜松ウエルネス推進協議会顧問 池野氏
13:50-14:30	【セッション1】 デジタルを活用した市民参加型のまちづくり モデレーター：(株)HEART CATCH 西村氏 パネリスト：浜松市フェロー 関氏、浜松市内で活動するコミュニティ 小林 氏、 はままつ子育てネットワーク ぴっぴ 原田氏、山ノ舎 中谷氏
14:30-15:10	【セッション2】 官民共創で目指すデータ連携基盤を活用したサービスの社会実装 モデレーター：浜松市フェロー 関氏 パネリスト：(株)フジヤマ 山浦氏、八千代エンジニアリング(株) 柴田氏 (株)オサシテクノス 古島氏、(一社)One Smile Foundation 辻氏
15:10-15:20	【休憩】
15:20-16:00	【セッション3】 デジタル・スマートシティ推進に係る人材育成 モデレーター：浜松市フェロー 日下氏 パネリスト：浜松市フェロー 南雲氏、浜松市フェロー 陳内氏、 静岡大学副学長 川田氏、浜松医科大学副学長 山本氏、AWS 大富部氏
16:00-16:50	【セッション4】 デジタル田園都市国家構想のリファレンスシティへ モデレーター：浜松市フェロー 東氏 パネリスト：浜松市長 鈴木 康友、浜松市フェロー 陳内氏、浜松市フェロー 関氏、 浜松市フェロー 日下氏、浜松市フェロー 南雲氏、浜松市フェロー 白坂氏、 浜松ウエルネス推進協議会顧問 池野氏

- ・ 企業や各種団体がイベントやセミナーを開催。
- ・ MONTH HP、広報はままつ、静岡新聞等で周知予定。

冠事業一覧（全29事業）

※開催日順

No.	事業名	主催
1	浜松商工会議所パソコン教室「無料体験＆教室見学会」	浜松商工会議所
2	プロにPR動画制作をお願いしてみませんか？HAMAMATSU動画マッチングサイト	浜松商工会議所
3	浜松科学館でのスマート農業展示	浜松産業部農業水産課
4	出世大名家康くんARフォトコンテスト(南区地域力向上事業中田島オータムフェスタ)	浜松市南区区振興課
5	浜松市土木スマホ通報システム新「いっちゃお！」の運用開始	浜松市土木部道路保全課
6	経営に関するオンライン無料セミナーを多数開催します	Co-startup&Community FUSE
7	外国人のための日本語教室 初級クラス	浜松市企画調整部 国際課
8	外国人のための日本語教室 ひらがなカタカナ漢字クラス 夜間オンラインコース	浜松市企画調整部 国際課
9	オンライン子育て支援セミナー 親子料理教室	株式会社杏林堂薬局（はままつママゼミ）
10	女性のための就活セミナー（幸せになるための仕事の選び方）	浜松市産業部産業振興課
11	防災デジタル教室～家族で挑戦！防災まちあるき～	浜松市防災学習センター
12	音楽を通じたSTEAM教育と市民協働によるコンサート	特定非営利活動法人浜松ものづくり工房

No.	事業名	主催
13	みんなでやらまい、やっちゃお！ 3 か月ごとに、スキルアップ！お持ちのスマホ・PCスキルを活かして、地元浜松を応援しませんか？	夢トロッコ
14	第2回 Rendir CUP オンラインサッカー大会 ～eスポーツで浜松を盛り上げよう～	一般社団法人レンディル浜松スポーツクラブ
15	外国人のための日本語教室 読み書きクラス	浜松市企画調整部国際課
16	外国人のための日本語教室 中級クラス	浜松市企画調整部国際課
17	知名度・集客・売上げアップ！ホームページ作成「ウェブサポ」セミナー	浜松商工会議所
18	働き方改革導入促進セミナー	浜松市産業部産業振興課
19	新居の設計前に知っておきたい！快適ITライフの作り方	SBSマイホームセンター（はままつママゼミ）
20	親子で体操をしながら最新IoT機器を体感！節電＆楽家事に！？	エネジン株式会社（はままつママゼミ）
21	オンライン子育て支援セミナー 幼児食講座	株式会社杏林堂薬局（はままつママゼミ）
22	海外ビジネスセミナー（IT産業を中心に成長を遂げるインドの最新情報）	浜松市産業部産業振興課ほか
23	Challenge to society5.0 in HAMAMATSU～数学コンテスト・特別講座～	浜松市産業部スタートアップ推進課
24	子育てに役立つ！ぴっぴ活用講座	浜松市子育て情報サイトぴっぴ
25	ITなんでも相談会	浜松商工会議所
26	第30回ハママツ・ジャズ・ウィーク「ヤマハ ジャズ フェスティバル」（ライブ配信）	浜松市ほか
27	キソから知ろう！かしこいお家づくり♪	浜松いわた信用金庫（はままつママゼミ）
28	就職氷河期世代向け個別就職相談会	浜松市産業部産業振興課
29	デジタルツールを活用したワークショップ～将来、自分のやりたいことを発見する～	株式会社ドコモビジネスソリューションズ

生涯学習講座におけるスマホ講座の状況

- 市内の協働センターなどが主催する生涯学習講座の一環として、スマホの基本操作や、よく使うアプリの活用方法を学ぶ講座の開催数が増加しています。

令和2年度
実績

令和3年度
計画

24回

80回以上



LINEの使い方講座@水産文化会館



スマートフォン入門講座@曳馬協働センター

令和3年7月5日発行 号外 申委北西第4号 回覧 1面

学習成果活用事業
「スマートフォンお悩み解決！」

スマートフォンの操作やアプリの使い方、料金のこと等、困っていることや、よくわからないことを解決できます。この機会に、スマートフォンを安心して使いこなせるようにしませんか。

1 日時と内容
※ 時期は、毎週13:30~15:30

8月17日(火)	スマートフォンって何？ スマートフォンの使い方 気を付けること(セキュリティ) ※お悩み相談
8月24日(火)	アプリって何？ LINE(ライン)の使い方 ※お悩み相談
8月31日(火)	MAP(地図)の使い方 動画の楽しみ方 ※お悩み相談
9月 7日(火)	カメラの使い方(きれいに撮るコツ) ※お悩み相談
9月14日(火)	キャッシュレス決済について ※お悩み相談

2 場 所 和地協働センター 講座室

3 定 員 毎回18名
(※全ての回の参加はもちろん、1回だけの参加でもOKです。)

4 費 用 無 料

5 講 師 佐野 圭吾 先生

6 申込方法と持ち物(申し込みは先着順とします。)

※ 和地協働センターの電話または直接窓口にお申し込みください。
(和地協働センター電話番号 ☎486-0253)
◆申し込みの際は、参加希望日をお知らせください。
※ お使いになっているスマートフォンをご持参ください。
参加の際は、マスクの着用をお願いします。
暑い時期です。水分補給用の飲み物をご用意ください。
※ 受付期間 7月19日(月)~8月10日(火) 8時30分~17時
(土日、祝日は受付できません。)

和地協働センターだより

西沢和地町
6578 番地
☎ 486-0253

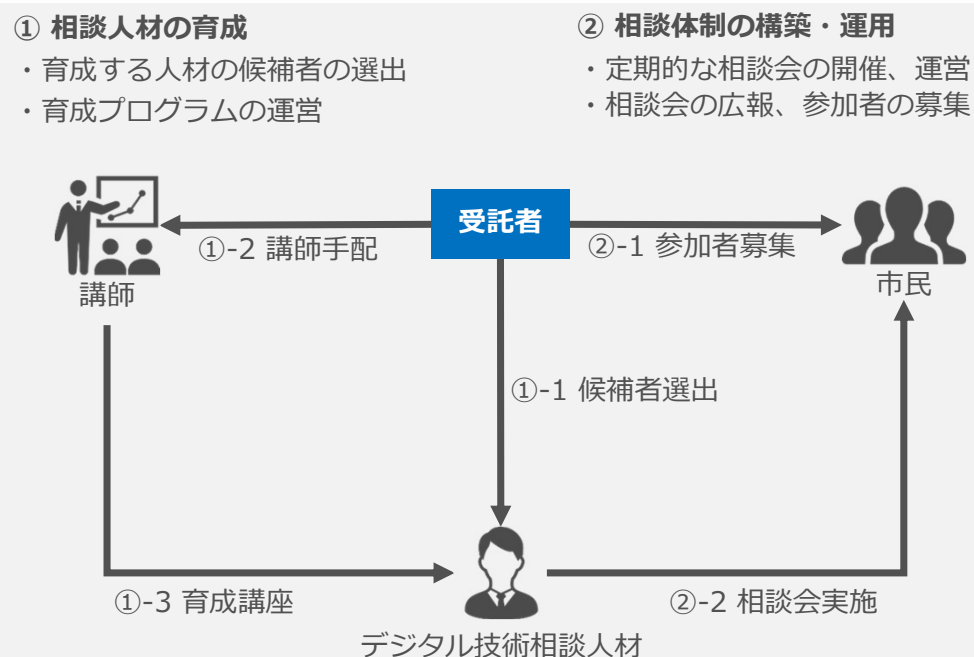
紙面

「学習成果活用事業」
「スマートフォンお悩み解決！」の事業

協働センターだよりなどを通じて広報・集客

浜松市デジタル技術活用支援事業

事業目的	1. 地域に根差したデジタル技術相談人材の育成 2. 育成した人材による支援体制の構築
事業スキーム	NPO法人まちづくりネットワークWILLへの業務委託により実施
デジタル技術 相談人材	水窪地域を対象として、12名の相談人材候補者を選出



国施策や市内の幅広い団体の取組との連携

- ・ 協働センター等で市が主催する講座の他、幅広い団体がスマホやZoomの使い方などのデジタル技術活用講座を開催
- ・ 総務省は「デジタル活用支援推進事業」により、地域連携型のスマホ講座の実施費を補助
- ・ さまざまな取組の情報を集約し、市のホームページで発信

デジタル活用講座の取組情報を集約・発信



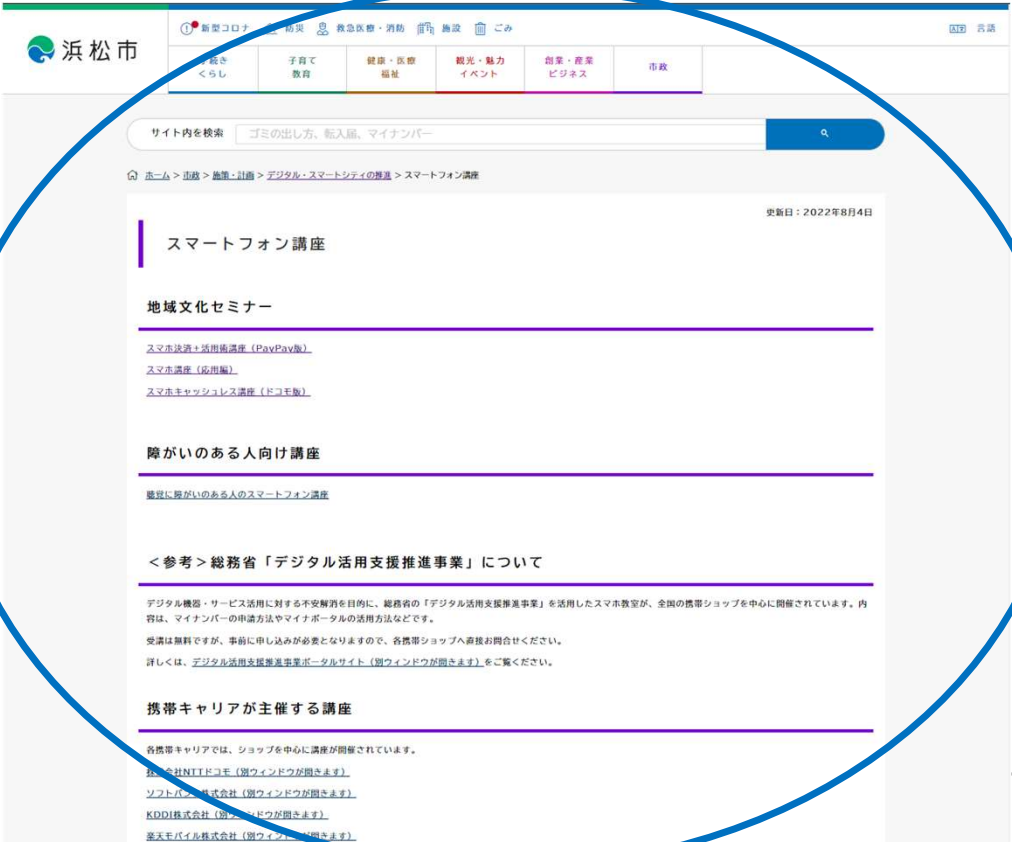
**デジタル活用
支援推進事業**



携帯キャリア店舗



パソコン教室





**シルバー人材センター
社会福祉協議会**



協働センター



商工団体・金融機関

スマートフォン講座

更新日：2022年8月4日

地域文化セミナー

[スマホ決済・活用講座（PayPay版）](#)

[スマホ講座（応用編）](#)

[スマホキャッシュレス講座（ドコモ版）](#)

障がいのある人向け講座

[障がいのある人のスマートフォン講座](#)

<参考> 総務省「デジタル活用支援推進事業」について

デジタル機器・サービス活用に対する不安解消を目的に、総務省の「デジタル活用支援推進事業」を活用したスマホ教室が、全国の携帯ショップを中心に開催されています。内容は、マイナンバーの申請方法やマイナンバーポータルの活用方法などです。

受講は無料ですが、事前に申し込みが必要となりますので、各携帯ショップへ直接お問合せください。

詳しくは、[デジタル活用支援推進事業ポータルサイト（別ウィンドウが開きます）](#)をご覧ください。

携帯キャリアが主催する講座

各携帯キャリアでは、ショップを中心に講座が開催されています。

[NTTドコモ（別ウィンドウが開きます）](#)

[ソフトバンク（別ウィンドウが開きます）](#)

[KDDI株式会社（別ウィンドウが開きます）](#)

[au（別ウィンドウが開きます）](#)

情報発信の強化

Digital Smart City HAMAMATSU

浜松市官民連携PF Facebookページ

官民連携PFが開催するイベントや取り組んでいるプロジェクトなどを紹介中。

【フォロワー】101人（2022.8.26時点）

Facebookページリンク：

<https://www.facebook.com/hamamatsu.digitalsmartcity.platform>



浜松市公式note

市内のデジタル・スマートシティ関連プロジェクトを取材し、紹介記事を浜松市公式noteにて発信中。

【現在掲載中の記事】

- ① 講師派遣制度第1回
- ② 協働センターでのスマホ講座

浜松市公式noteリンク：

<https://hamamatsu-city.note.jp/menu/173803>



概要

講師

派遣先の対象

講義内容

-

スケジュール

2022年度											
4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
講師募集											
派遣先募集											
開催											

講師派遣制度（令和4年度新規事業）

日時

令和4年7月8日（金） 14：10-14：55

講師

ソフトバンク株式会社

派遣先の対象

浜松市立篠原小学校 6年生児童約120名

講義内容

「ミライの社会を覗いてみよう！」

デジタル化の進んだ将来の社会の全体像や、仕事・生活の姿を動画を交えながら紹介し、子どもたちが自分の生き方を考えるきっかけを提供する。

講座の様子を市公式noteにて紹介中！

リンク：

<https://hamamatsu-city.note.jp/menu/173803>



講師派遣制度（令和4年度新規事業）

講座一覧（令和4年5月18日時点） ※団体名50音順

No.	講座名	講師団体
1	スマート林業の現状と今後の展望	静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター
2	ミライの社会を覗いてみよう！	ソフトバンク株式会社
3	未定	株式会社ドコモCS 東海 静岡支店
4	ドローンの未来について	株式会社トラジェクトリー
5	デジタルデータの活用による 静岡県の持続的なわさび産業振興	西日本電信電話株式会社（NTT 西日本）
6	未来の街のオンライン見学	日本電気株式会社
7	身近な課題をデジタルで解決する	認定NPO 法人 はままつ子育てネットワークぴっぴ
8	浜松市のスマート農業	浜松スマート農業推進協議会
9	地理情報（GIS）	株式会社フジヤマ
10	産業分野におけるイノベーション創出とDX	リンクウィズ 株式会社
11	ICT を考える	特定非営利活動法人 六星・ウィズ

講師派遣制度（令和4年度新規事業）

No.	日程	学校	対象	講師	講座名
第1回	7月8日（金） 14:10-14:55	浜松市立 篠原小学校	6年生 約120名	ソフトバンク(株)	「ミライの社会を覗いて みよう！」
第2回	9月22日（木） 10:50-12:40	静岡県立 浜松湖北高等学校	3年生 21名	西日本電信電話(株)	「デジタルデータの活用 による静岡県の持続的 なわさび産業振興」
第3回	9月29日（木） 13:20-15:00	浜松市立 富塚小学校	4年生 78名	(特非) 六星 ウイズ半田	「ICTを考える」
第4回	10月18日（火） 13:30-14:15	浜松市立 平山小学校	6年生 10名	(株)トラジェクトリー	「ドローンの未来につい て」

次代を担う人材の育成（大学との連携）

オープンデータをテーマとした アイデアソン・データソン

- 主催
静岡大学情報学部（協力：静岡県、浜松市）
- 開催日
アイデアソン：7月 4日（日）9：30～17：00
データソン：7月18日（日）10：00～17：00
- 参加者
社会人6名、大学生8名、高校生5名

浜松市の地域課題解決や地域資源の発掘、地域の魅力向上及び活性化を図ることを目的に、オープンデータの利活用をテーマとしたアイデアソン・データソンを実施。

（今回使用されたオープンデータの例：空き家の位置、人口分布、公共施設、3次元点群データ・・・など）



はままつ ITキッズプロジェクト

主催 | 浜松ITキッズプロジェクト推進会議

（NPO法人浜松ソフト産業協会・浜松理科教育研究会・浜松科学館・浜松市）

静岡大学 情報学部

小学生コース 9期生：2020年7月からの受講生

中学生コース 5期生：2021年5月からの受講生

〔小学生コース〕

- ITロボット講座
- ITコンピュータ講座
- IT英語講座
- IT算数講座
- IT理科講座

〔中学生コース〕

- ロボットプログラミング
- アプリケーション開発コース
- IT英語
- 理数上級



次代を担う人材の育成（専門学校との連携：令和3年度）

令和3年度 学科横断プロジェクトデザイン（浜松未来総合専門学校【一般会員】）

取組概要

- 「デジタルを活用した地域課題解決」をテーマに、課題発見、解決策の検討、検証、発信までを行う問題解決型授業を2022.7から実施。

成果報告会（3/18開催）

- 1年間の集大成として12グループが成果を報告。
- 14ある学科コースを超えて繋がった学生グループが、課題を解決するためのビジネスプランを発表。

【発表テーマ】

- ① 高齢者にやさしく
- ② 環境
- ③ 飲食店の活性化
- ④ コロナ禍での娯楽プロジェクト
- ⑤ 校内コミュニティ
- ⑥ 若者の流出防止対策
- ⑦ 学習環境
- ⑧ ポイ捨てを減らすために
- ⑨ ゴミ問題

